令和７年度
福岡市高齢者実態調査
報　告　書
【概 要 版】

令和８年７月

福岡市　福祉局

＜ 目 次 ＞

Ⅰ 調査概要 1

１．調査の目的 1
２．調査の概要 1
３．回収の結果 2
４．資料の見方 2

Ⅱ 調査結果 3

第１章 高齢者一般調査共通設問 3
１．回答者の属性 3
２．世帯状況 4
３．情報通信機器利用状況 5
第２章 高齢者一般調査Ａ 7
１．日常生活 7
（１）外出 7
（２）近所付き合い 9
（３）孤立死 10
（４）災害時や緊急時 12
２．生きがい・社会参加 13
（１）生きがいを感じること 13
（２）仕事 14
（３）社会参加 17
第３章 高齢者一般調査Ｂ 19
１．住まい 19
（１）住居形態 19
（２）困りごと・住み替え 20
２．健康状態 21
（１）健康状態 21
（２）健康づくりや介護予防 23
（３）口腔 25
（４）認知症 26
３．医療・福祉 27
（１）いきいきセンターふくおか（地域包括支援センター） 27
（２）在宅医療 28
（３）今後の介護意向 29
（４）行政への要望 30

第４章　介護サービス調査共通設問 31
１．回答者の属性 31
（１）性別・年齢 31
（２）要介護度 32
２．在宅医療 33
３．今後の介護の受け方 35
４．介護保険制度 36
５．介護者 37
（１）介護者の属性 37
（２）介護者の就業 38
（３）今後の介護の仕方 40
第５章　介護保険在宅サービス利用者調査 41
１．介護保険サービスの利用状況 41
２．在宅で生活するために必要性が高いサービス 42
第６章　介護保険在宅サービス未利用者調査 43
１．介護保険サービスの利用状況 43
（１）在宅サービスの利用経験 43
（２）在宅サービスを利用していない理由 44
２．今後の介護保険サービスの利用 45
第７章　介護保険施設等サービス利用者調査 46
１．施設等への入所を希望した理由・現在の施設の満足度 46
２．施設等を選ぶときに重視する点 48
第８章　介護支援専門員調査 49
１．回答者の属性 49
２．勤務形態・兼務内容 50
３．ケアマネジメント 51
（１）給付管理件数 51
（２）組み合わせた保険外サービス 51
（３）今後充実が必要な保険外サービス 52
４．地域ケア会議 53
５．行政に期待する役割 54

Ⅰ　調査概要

１．調査の目的

本市に在住する高齢者などの保健福祉に関するニーズ・意識などを把握することにより、「第１０期介護保険事業計画」の策定に必要な基礎的データを収集・分析するとともに、本市の高齢者福祉施策の向上に資することを目的とする。

２．調査の概要

調査種別	対象者・調査人数	発送日	回収期限
高齢者一般調査Ａ	・市内在住の 65 歳以上（令和 7 年 10 月時点）の者 ・3,000 人（住民基本台帳から無作為抽出）	令和 8 年 1 月 15 日	令和 8 年 2 月 13 日 郵送着まで
高齢者一般調査Ｂ	・市内在住の 65 歳以上（令和 7 年 10 月時点）の者 ・3,000 人（住民基本台帳から無作為抽出）		
介護保険在宅サービス利用者調査	・介護保険在宅サービス利用者（令和 7 年 8 月時点） ・3,000 人（無作為抽出）		
介護保険在宅サービス未利用者調査	・在宅の要介護認定者のうち、サービス未利用者（令和 7 年 8 月時点） ・2,000 人（無作為抽出）		
介護保険施設等サービス利用者調査	・市内の介護保険施設、グループホーム入所者（令和 7 年 8 月時点） ・1,500 人（無作為抽出）		
介護支援専門員調査	・市内の居宅介護支援事業所、いきいきセンターふくおか所属の介護支援専門員（令和 7 年 10 月時点） ・1,504 人		

３．回収の結果

調査種別	配布数	回収数	回収率	有効回収数	有効回収率
高齢者一般調査Ａ	3,000	1,975	65.8%	1,970	65.7%
高齢者一般調査Ｂ	3,000	1,915	63.8%	1,912	63.7%
介護保険在宅サービス利用者調査	3,000	1,493	49.8%	1,490	49.7%
介護保険在宅サービス未利用者調査	2,000	1,006	50.3%	996	49.8%
介護保険施設等サービス利用者調査	1,500	1,065	71.0%	910	60.7%
介護支援専門員調査	1,504	1,103	73.3%	1,103	73.3%

※回収された調査票から白紙のものを除いた有効票のみを集計に使用している。

４．資料の見方

(1)集計結果は、標本数（図ではｎと表示）を基数として百分比（%）を算出し、小数点第1位（第2位を四捨五入）までを図表に表している。

(2)小数点第2位を四捨五入しているため、構成比の計が100%とならない場合がある。また複数回答の質問においては、百分比の合計が100%を超える場合がある。

(3)図表中の「N」(Number of cases の略）とは設問に対する回答件数の総数を示しており、回答者の構成比（%）を算出するための基数である。

(4)グラフ内の数値の単位はすべて%である。

(5)2つ以上の選択肢を合計して表している比率は、各選択肢の割を合計して算出している。

(6)文中の選択肢の表記は「」で行い、2つ以上のものを合計して表す選択肢は『』で表記している。

Ⅱ　調査結果

第１章　高齢者一般調査共通設問

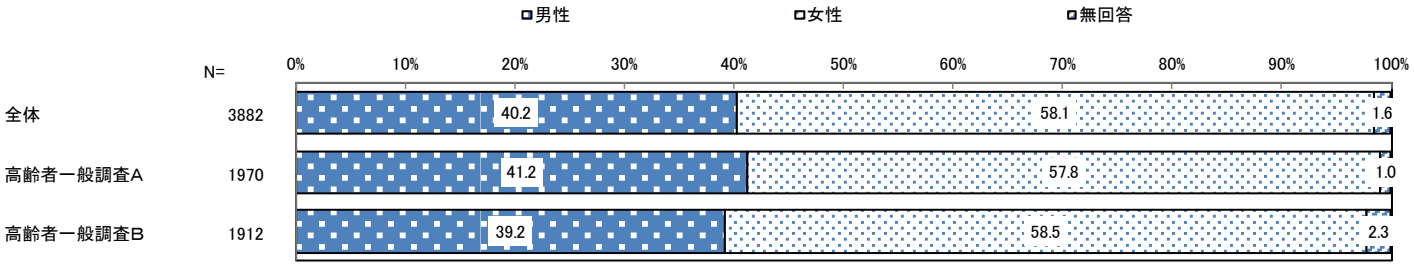
「高齢者一般調査 A」「高齢者一般調査 B」の２つの調査に共通する設問については、各調査別の傾向が比較できるよう「共通設問」として掲載した。

１．回答者の属性

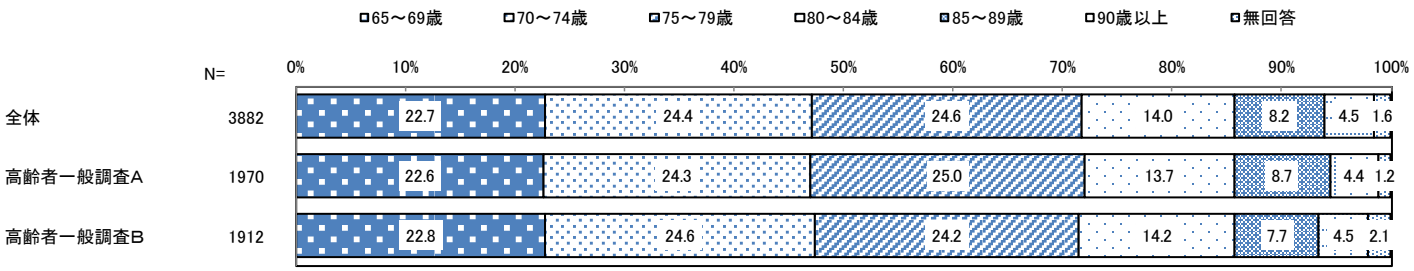
（調査 A：問２・問３、調査 B：問２・問３）

◇回答者は、調査 A では「男性」が 41.2%、「女性」が 57.8%、調査 B では「男性」が 39.2%、「女性」が 58.5%となっている。【図表 1-1-1】
◇『75 歳以上の後期高齢者』は、調査Ａでは 51.8%、調査Ｂでは 50.6%となっている。【図表 1-1-2】

【図表 1-1-1 性別】



【図表 1-1-2 年齢】

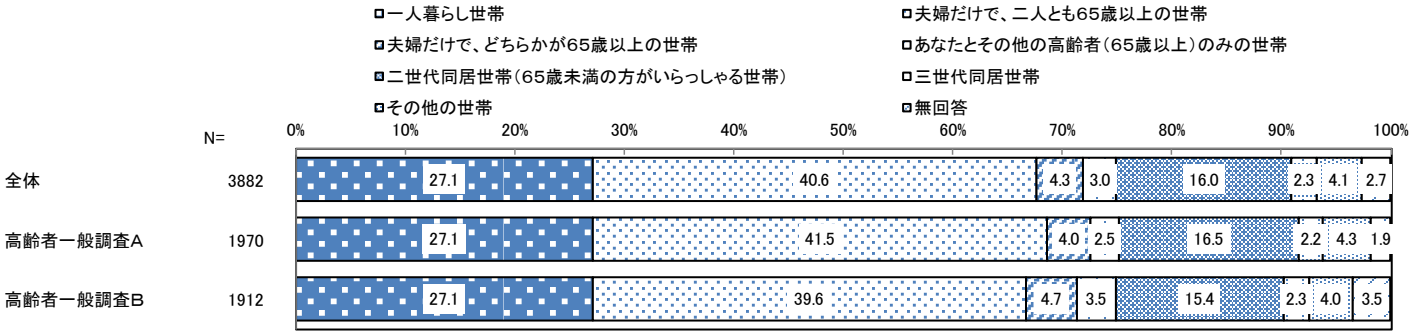


２．世帯状況

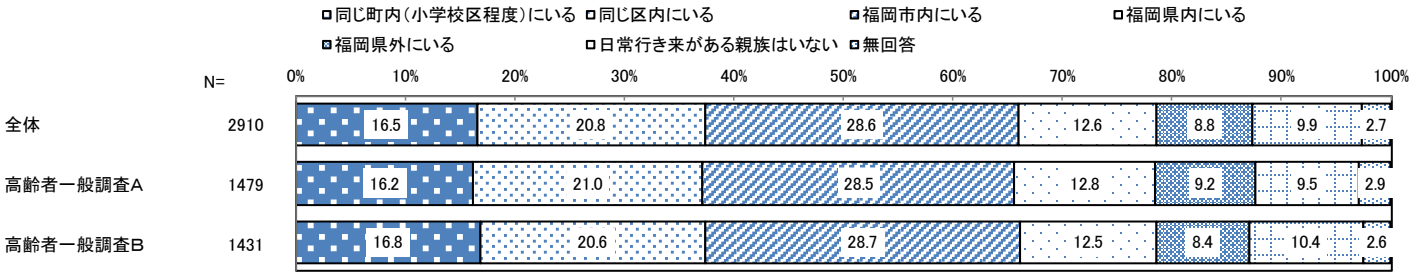
（調査Ａ：問５・問５－１、調査Ｂ：問５・問５－１）

◇「一人暮らし世帯」は、調査Ａ、調査Ｂともに 27.1％となっている。【図表 1-2-1】
◇「一人暮らし世帯」と「夫婦だけで、二人とも６５歳以上の世帯」、「夫婦だけで、どちらかが６５歳以上の世帯」、「あなたとその他の高齢者（６５歳以上）のみの世帯」を合わせた『高齢者のみで暮らす世帯』のうち、日常行き来がある親族のいる場所が『福岡市内』であるのは、調査Ａでは 65.7％、調査Ｂでは 66.1％となっている。【図表 1-2-2】

【図表 1-2-1 世帯構成】



【図表 1-2-2 日常行き来がある親族のいる場所】



	福岡市内
調査Ａ	65.7
調査Ｂ	66.1

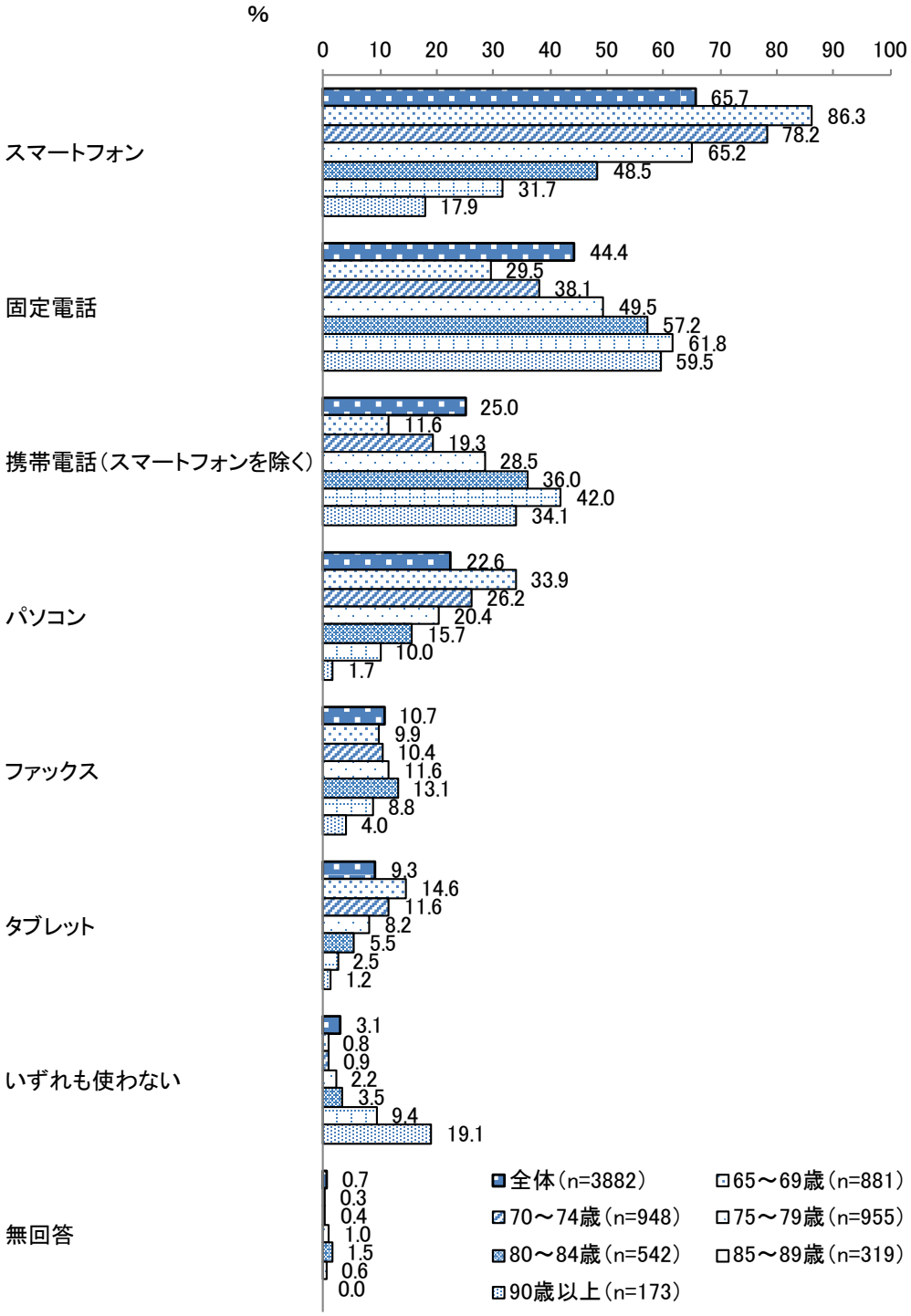
３．情報通信機器利用状況

（調査Ａ：問８・問８－１、調査Ｂ：問８・問８－１）

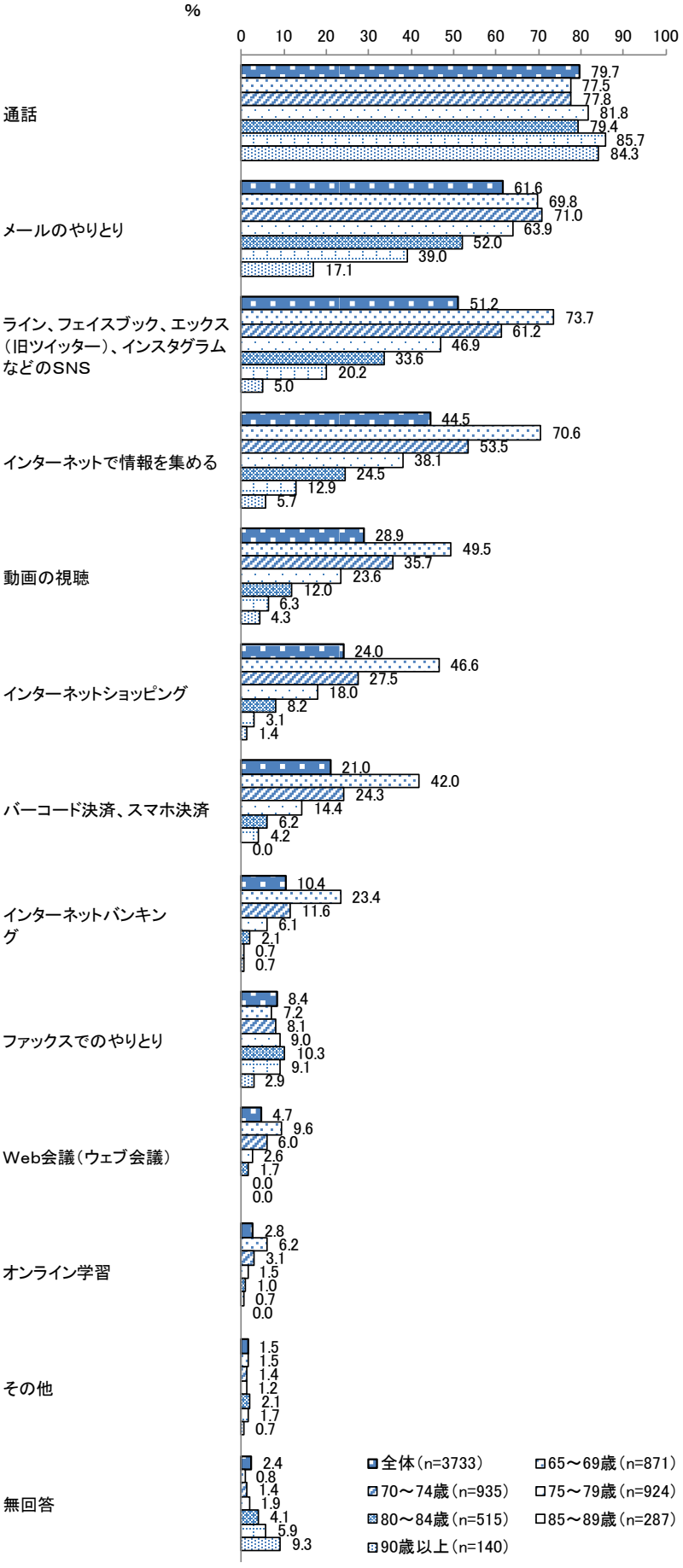
◇利用している情報通信機器は、全体では「スマートフォン」が 65.7%で最も高く、次いで「固定電話」が 44.4%、「携帯電話（スマートフォンを除く）」が 25.0%となっている。【図表 1-3-1】

◇情報通信機器の利用用途は、全体では「通話」が 79.7%で最も高く、次いで「ライン、フェイスブック、エックス（旧ツイッター）、インスタグラムなどのＳＮＳ」が 61.6%、「インターネットで情報を集める」が 51.2%となっている。【図表 1-3-2】

【図表 1-3-1 利用している情報通信機器（年齢別）［複数回答］】



【図表 1-3-2 情報通信機器の利用用途（年齢別）［複数回答］】



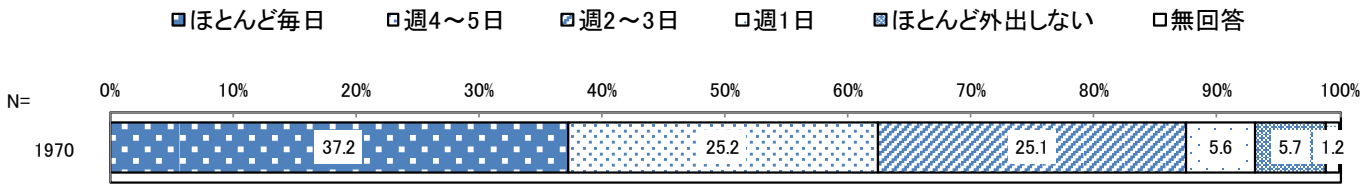
第２章　高齢者一般調査 A

１．日常生活

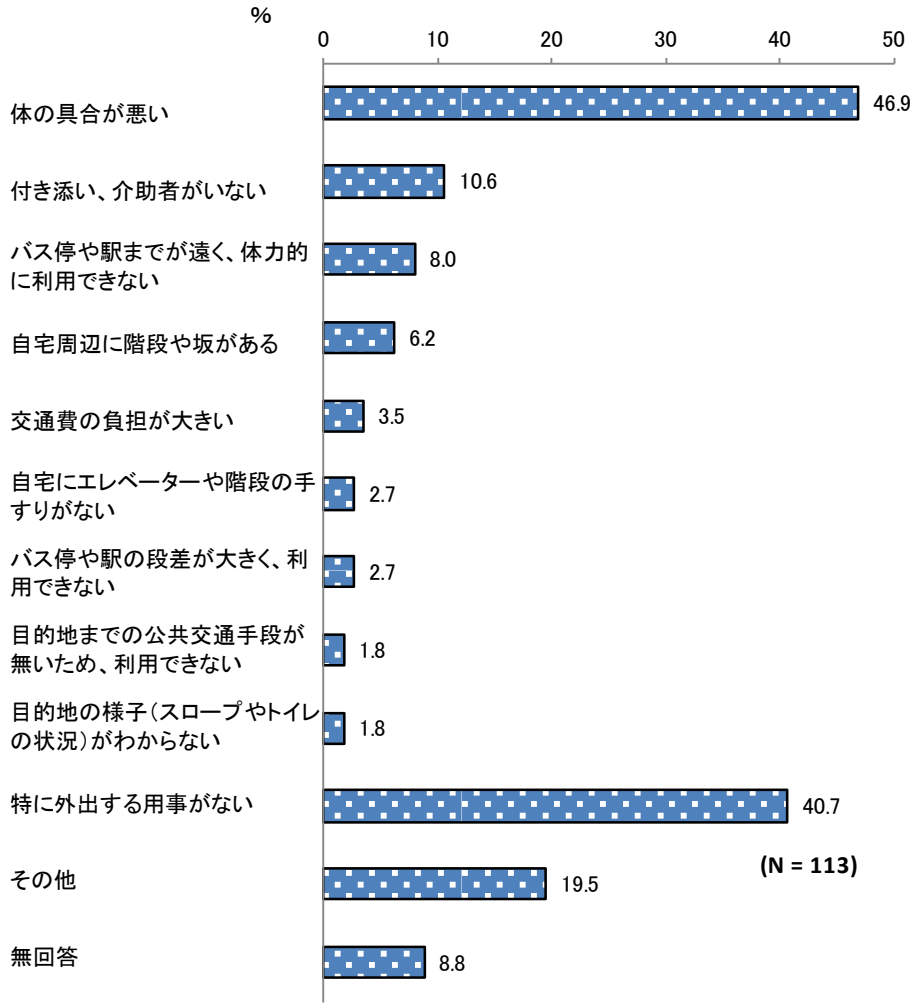
（１）外出（問９・問９－３・問 11）

◇一週間あたりの外出頻度は、「ほとんど毎日」が 37.2%で最も高く、次いで「週４～５日」が 25.2%、「週２～３日」が 25.1%となっている。【図表 2-1-1】
◇外出しない理由は、「体の具合が悪い」が 46.9%で最も高く、次いで「特に外出する用事がない」が 40.7%となっている。【図表 2-1-2】
◇外出の際に困っていることは、「自転車や車などの交通マナーが悪い」が 20.6%、「バス停に屋根やベンチなどの待合い施設が少ない」が 16.5%となっている。【図表 2-1-3】

【図表 2-1-1 一週間の外出頻度】



【図表 2-1-2 外出しない理由[複数回答]】



【図表 2-1-3 外出の困りごと[複数回答]】

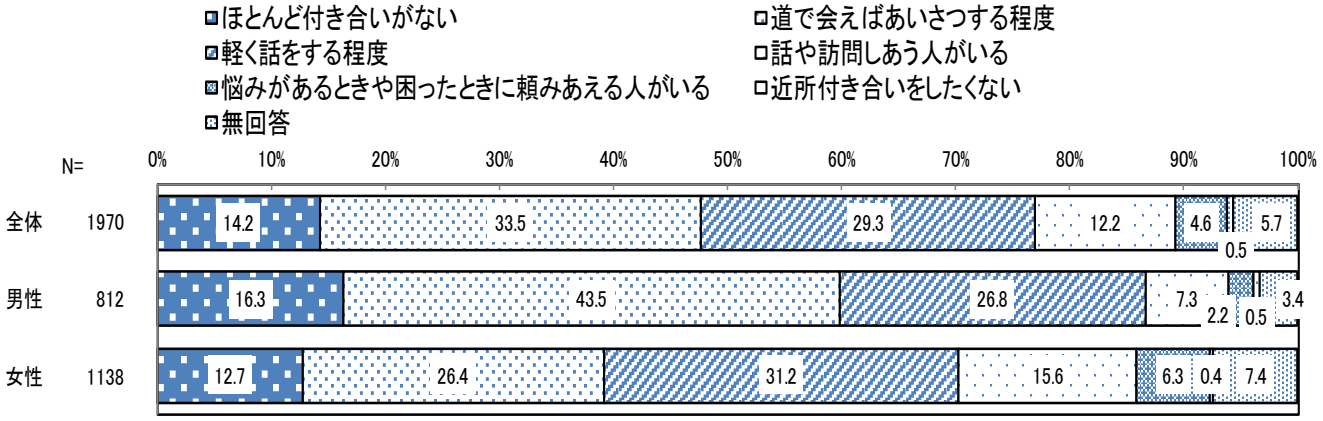


（２）近所付き合い（問 13）

◇近所付き合いの程度は、「ほとんど付き合いがない」と「道で会えばあいさつする程度」を合わせた『近所付き合いが少ない』は 47.7%、一方、「話や訪問しあう人がいる」と「悩みがあるときや困ったときに頼みあえる人がいる」を合わせた『近所付き合いが多い』は 16.8%となっている。【図表 2-1-4】

◇『近所付き合いが少ない』は男性で 59.8%、女性で 39.1%となっており、男性は女性よりも『近所付き合いが少ない』の割合が高い。【図表 2-1-4】

【図表 2-1-4 近所付き合い】

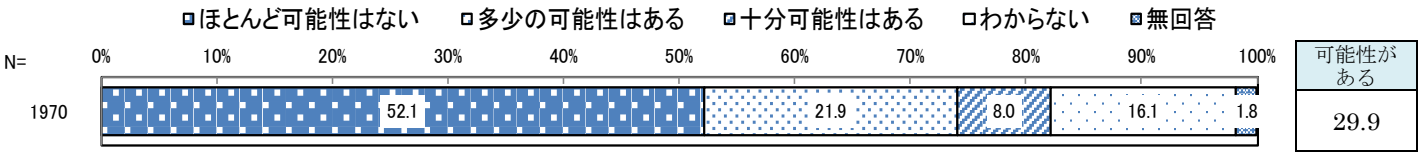


	近所付き合いが少ない	近所付き合いが多い
全体	47.7	16.8
男性	59.8	9.5
女性	39.1	21.9

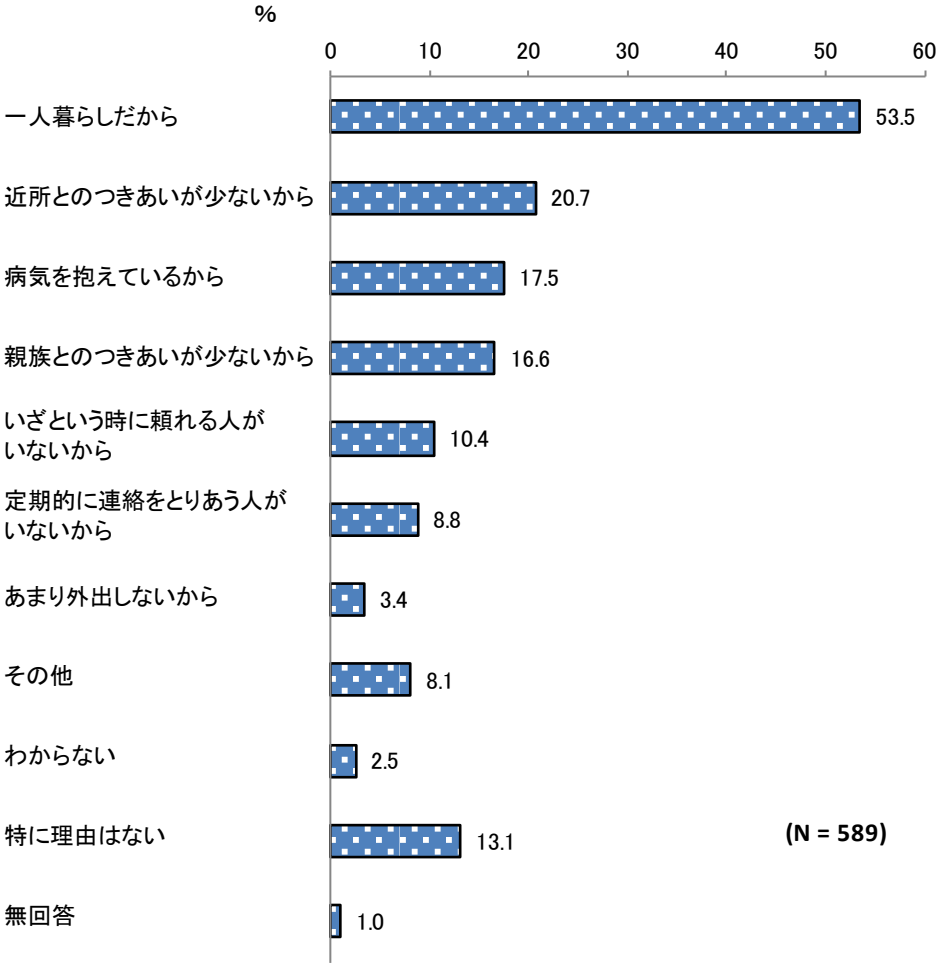
（３）孤立死（問 16・問 16－１・問 17）

◇孤立死する可能性の認識は、「ほとんど可能性はない」が 52.1％で最も高く、次いで「多少の可能性はある」と「十分可能性はある」を合わせた『可能性がある』が 29.9%となっている。【図表 2-1-5】
◇孤立死する可能性がある理由は、「一人暮らしだから」が 53.5％で最も高く、次いで「近所とのつきあいが少ないから」が 20.7%、「病気を抱えているから」が 17.5%となっている。【図表 2-1-6】
◇孤立死防止策として必要なことは、「行政が提供する福祉サービス」が 38.5％で最も高く、次いで「健康づくりや趣味活動への参加」が 30.8%となっている。【図表 2-1-7】

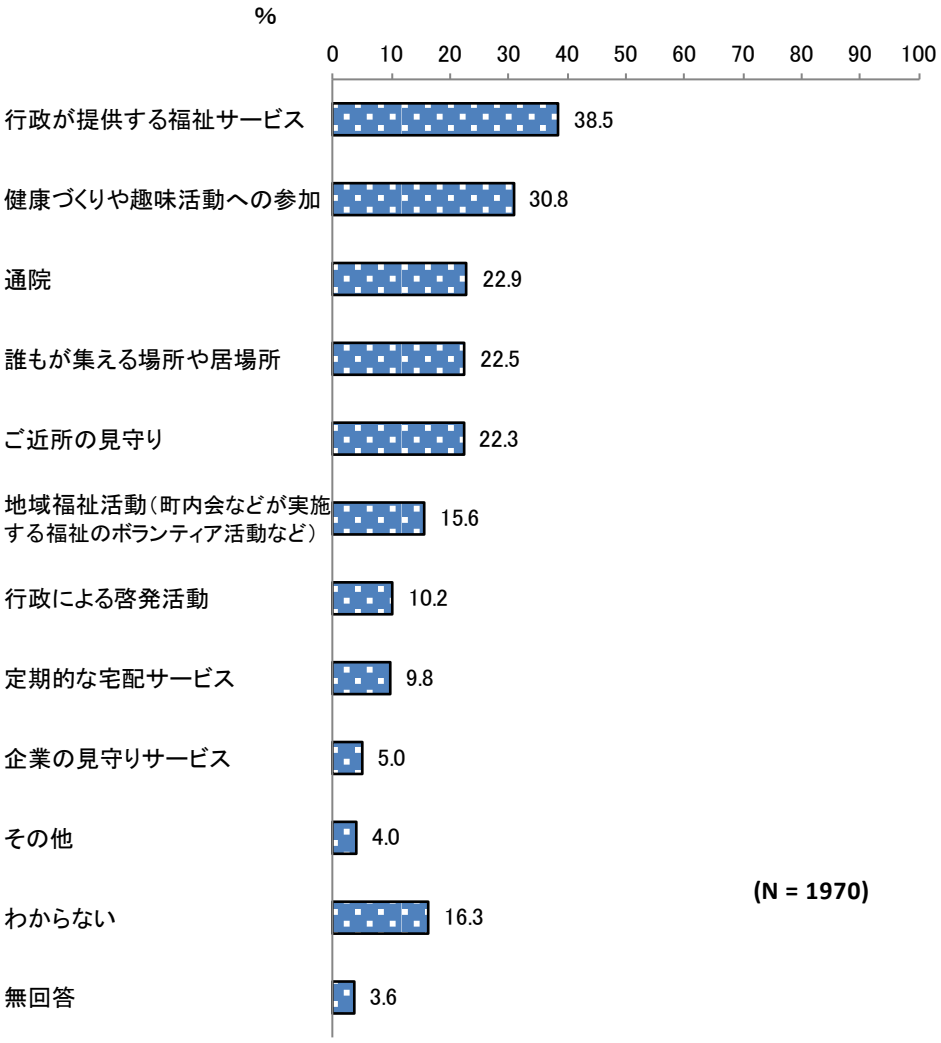
【図表 2-1-5 孤立死する可能性】



【図表 2-1-6 孤立死する理由[複数回答]】



【図表 2-1-7 孤立死防止策として必要と思うこと[複数回答]】



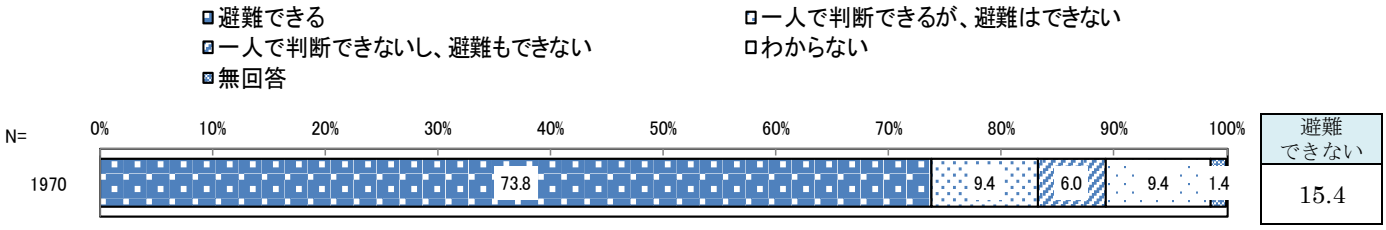
（４）災害時や緊急時（問 19・問 20・問 21）

◇災害時や緊急時における一人での避難は、「避難できる」が 73.8%、「一人で判断できるが、避難はできない」と「一人で判断できないし、避難もできない」を合わせた『避難できない』の割合が 15.4%となっている。【図表 2-1-8】

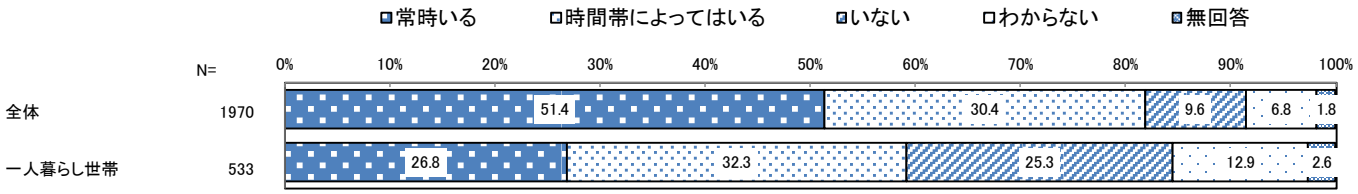
◇災害時に手助けを頼める人の有無は、「常時いる」が 51.4%で最も高く、次いで「時間帯によってはいる」が 30.4%、「いない」が 9.6%となっている。一人暮らし世帯では、「いない」が 25.3%と他の世帯構成と比べて高くなっている。【図表 2-1-9】

◇災害時の心配事や問題点は、全体で「避難所での生活が不安」が 45.5%で最も高く、次いで「特にない」が 31.7%、「情報をうまく入手できない」が 17.2%となっている。【図表 2-1-10】

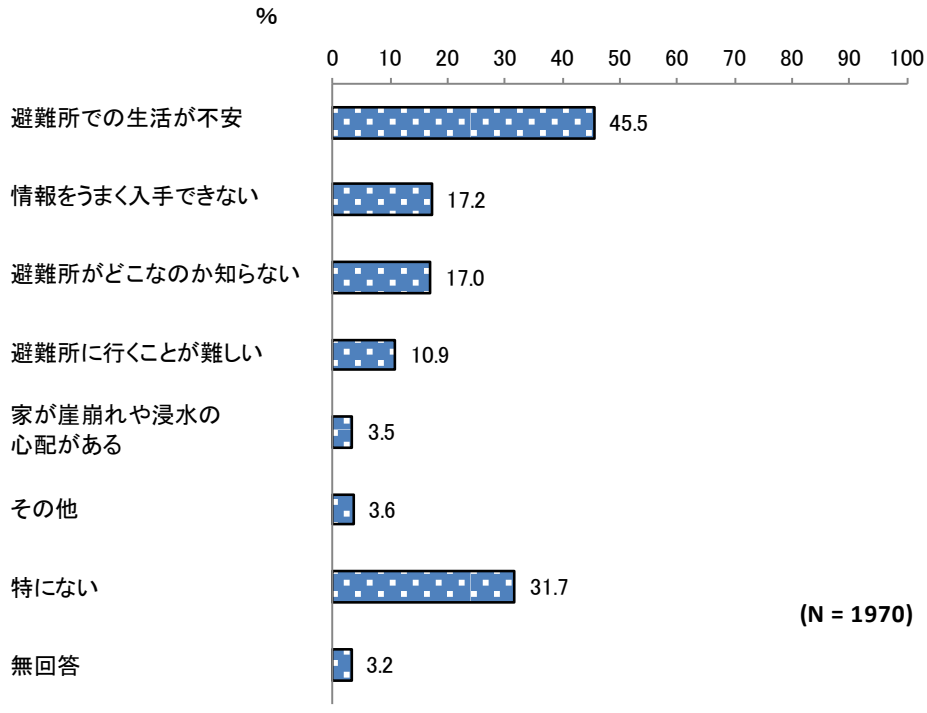
【図表 2-1-8 災害時や緊急時における一人での避難】



【図表 2-1-9 災害時や緊急時に手助けを頼める人の状況（全体・一人暮らし）】



【図表 2-1-10 災害時の心配事や問題点の内容[複数回答]】



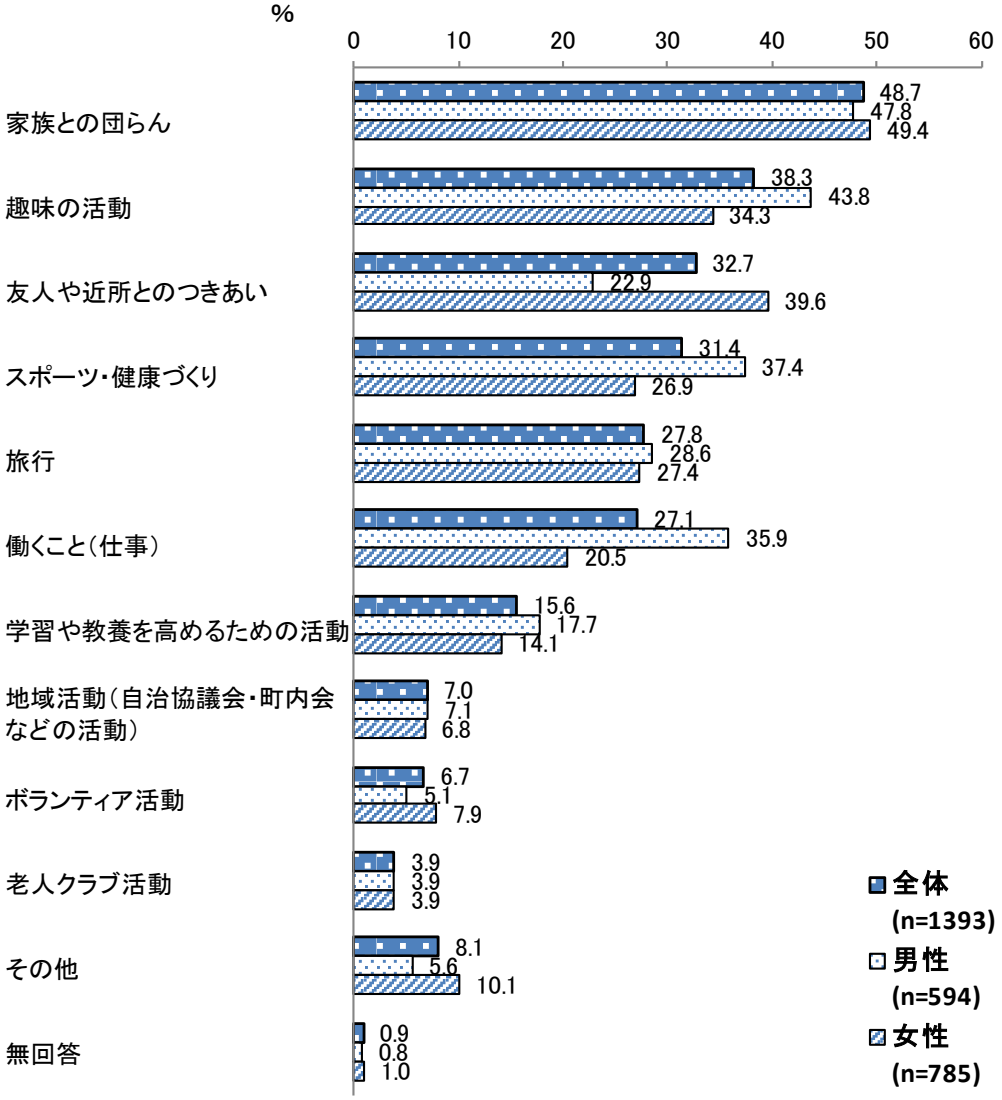
２．生きがい・社会参加

（１）生きがいを感じること（問 26－１）

◇生きがいを感じることは、「家族との団らん」が 48.7%で最も高く、次いで「趣味の活動」が 38.3%となっている。【図表 2-2-1】

◇男性の上位３位は「家族との団らん」「趣味の活動」「スポーツ・健康づくり」、女性の上位３位は「家族との団らん」「友人や近所とのつきあい」「趣味の活動」となっている。【図表 2-2-1】

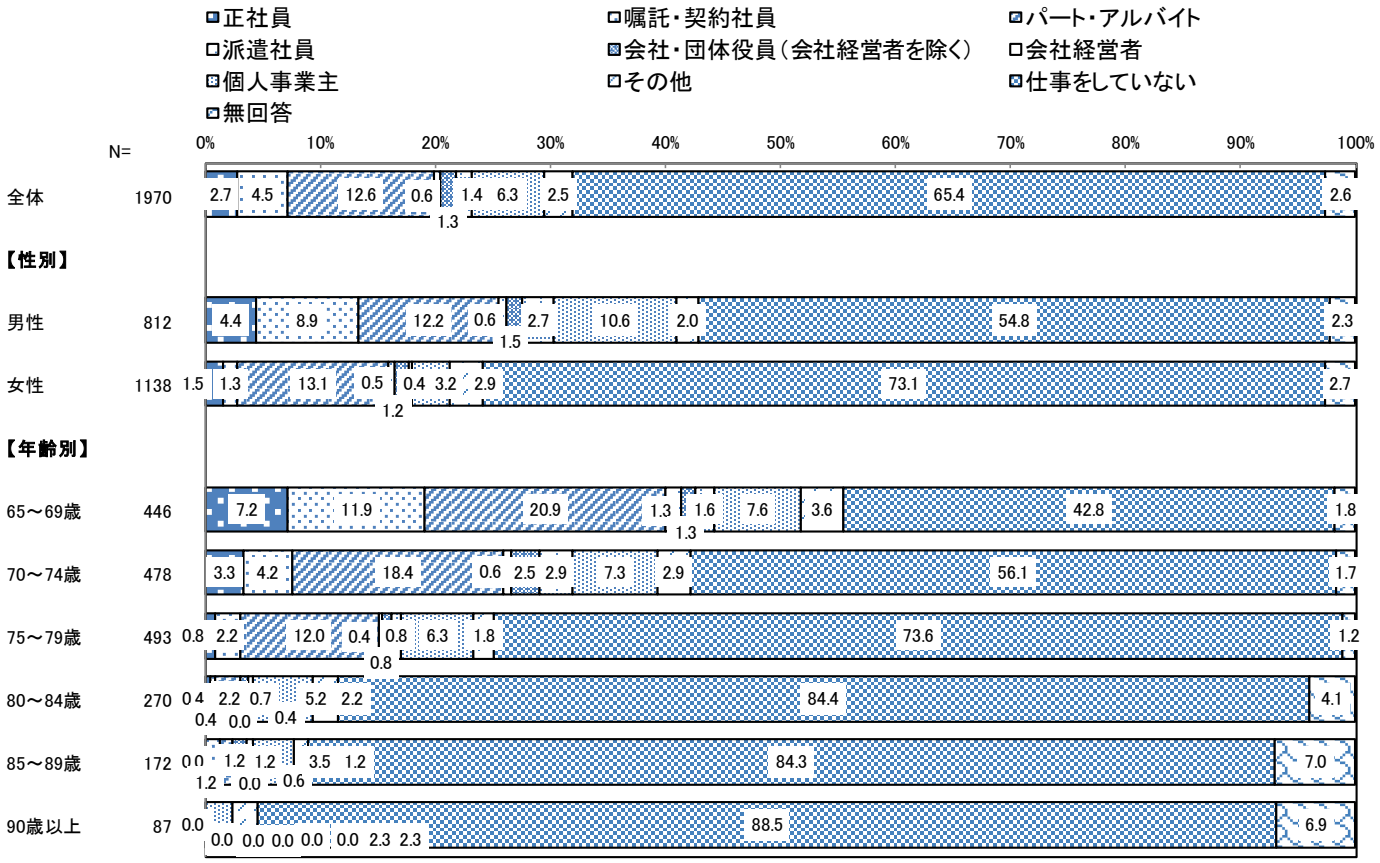
【図表 2-2-1 生きがいを感じること（性別）［複数回答］】



（２）仕事（問 31・問 31－４・問 31－５・問 31－６）

◇日々の過ごし方は、「仕事をしていない」が 65.4%で最も高く、次いで「パート・アルバイト」が 12.6%となっている。【図表 2-2-2】
◇「仕事をしていない」と回答した人を年齢別にみると、65～69 歳で 42.8%、70～74 歳で 56.1%、75～79 歳で 73.6%と、年齢が若いほど割合が低くなる傾向にある。【図表 2-2-2】

【図表 2-2-2 日々の過ごし方（性別・年齢別）】

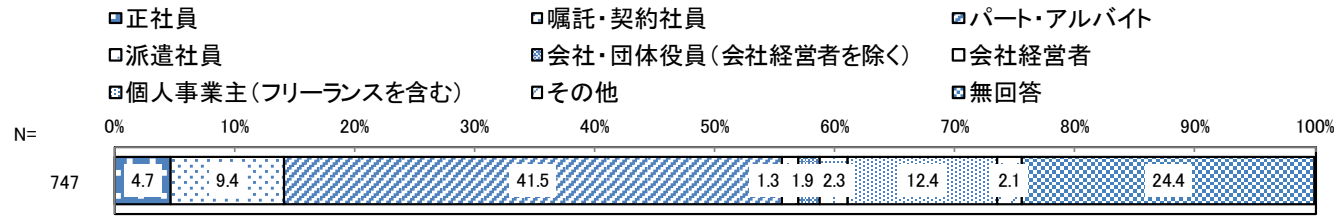


◇希望する仕事内容は、「特に希望なし」が 16.5%で最も高く、次いで「サービスの職業」が 15.4%、「事務的職業」が 11.2%となっている。【図表 2-2-3】
◇希望する就労形態は、「パート・アルバイト」が 41.5%で最も高く、次いで「個人事業主（フリーランスを含む）」が 12.4%、「嘱託・契約社員」が 9.4%となっている。【図表 2-2-4】
◇仕事をしたい頻度は、一週間に「3 日」、一日に「4～6 時間」が最も高かった。【図表 2-2-5】【図表 2-2-6】

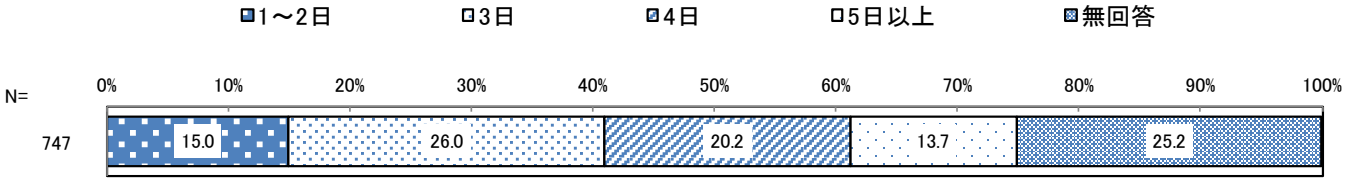
【図表 2-2-3 希望する仕事内容[複数回答]】



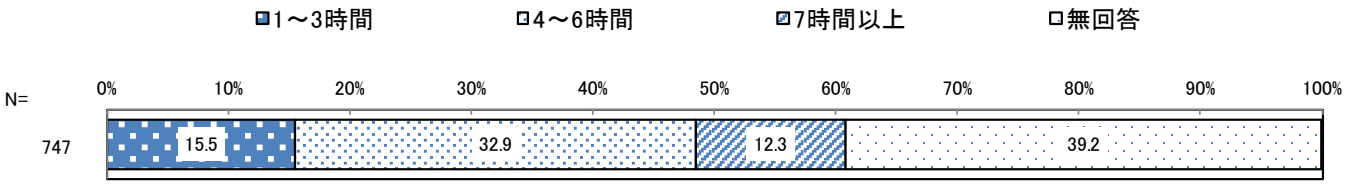
【図表 2-2-4 希望する就労形態】



【図表 2-2-5 仕事をしたい頻度/一週間に】



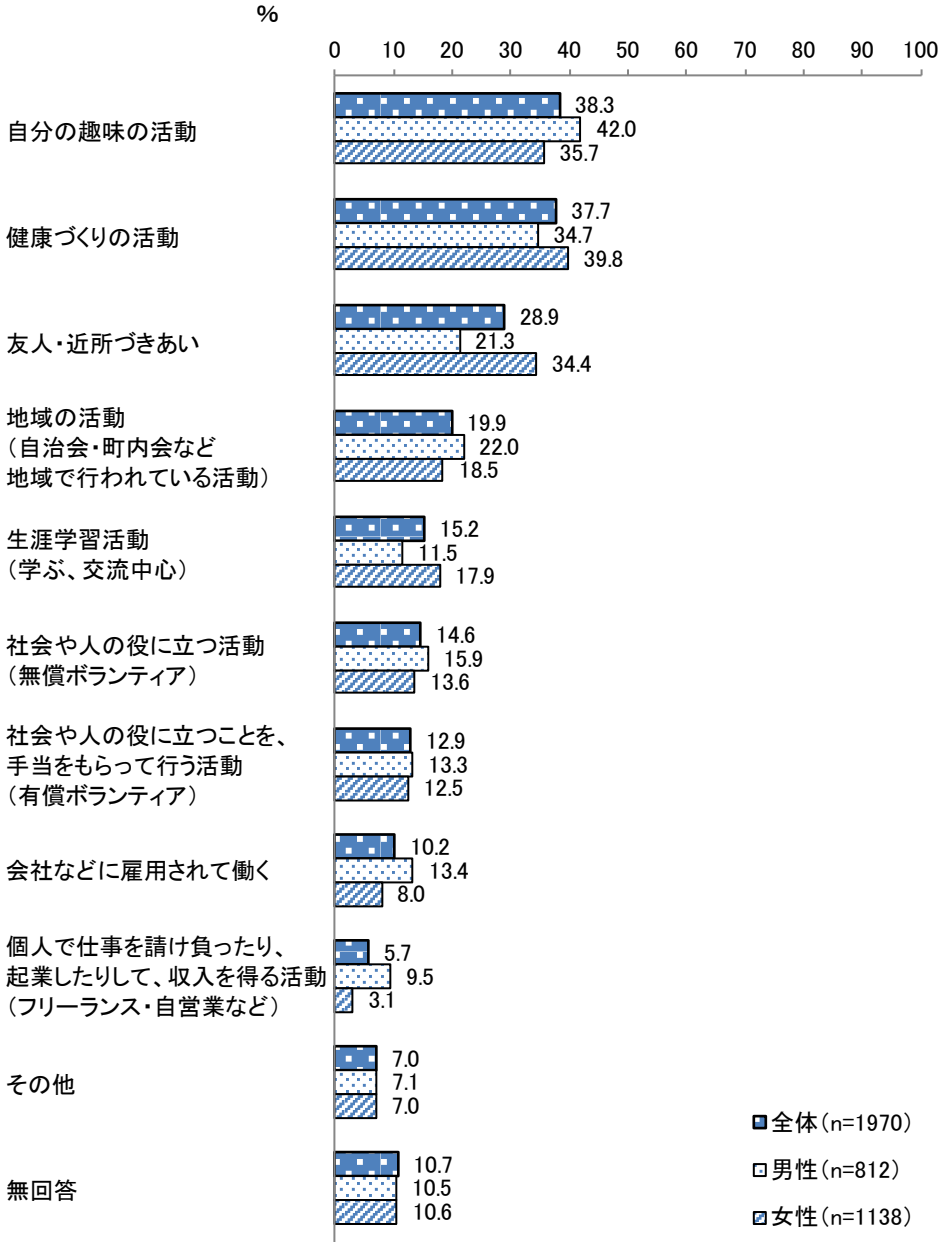
【図表 2-2-6 仕事をしたい頻度/一日に】



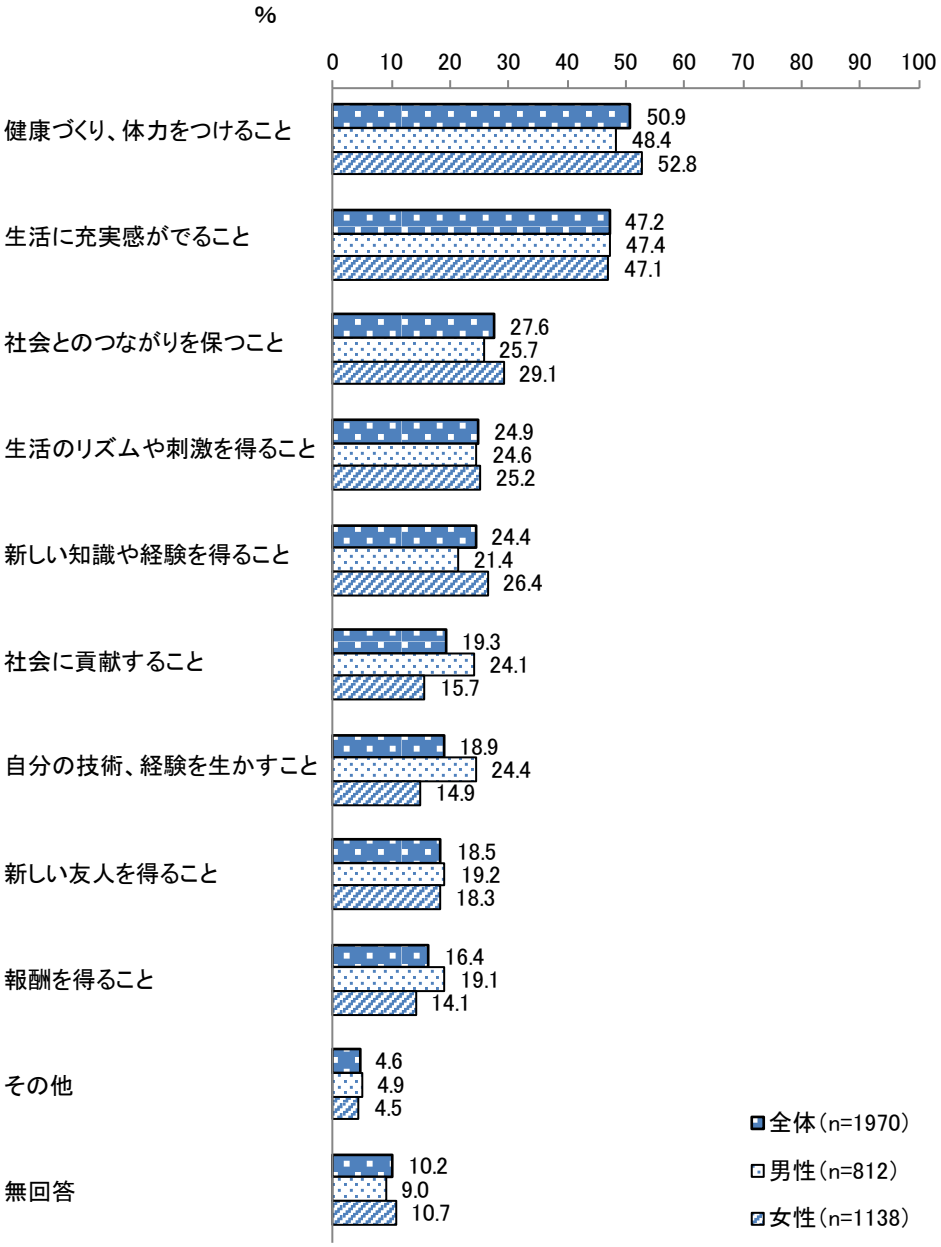
（３）社会参加（問 33・問 34）

◇社会参加したい活動は、「自分の趣味の活動」が 38.3%で最も高く、次いで「健康づくりの活動」が 37.7%、「友人・近所づきあい」が 28.9%となっている。【図表 2-2-7】
◇性別にみると、「自分の趣味の活動」では、男性が 42.0%、女性が 35.7%と、男性が女性を上回っている。一方「友人・近所づきあい」では、男性が 21.3%、女性が 34.4%と、女性が男性を大きく上回っている。【図表 2-2-7】
◇社会参加を行う際に期待することは、「健康づくり、体力をつけること」が 50.9%で最も高く、次いで「生活に充実感がでること」が 47.2%、「社会とのつながりを保つこと」が 27.6%、「生活のリズムや刺激を得ること」が 24.9%となっている。【図表 2-2-8】

【図表 2-2-7 社会参加したい活動（性別）［複数回答］】



【図表 2-2-8 社会参加を行う際に期待すること（性別）［複数回答］】



第３章　高齢者一般調査 B

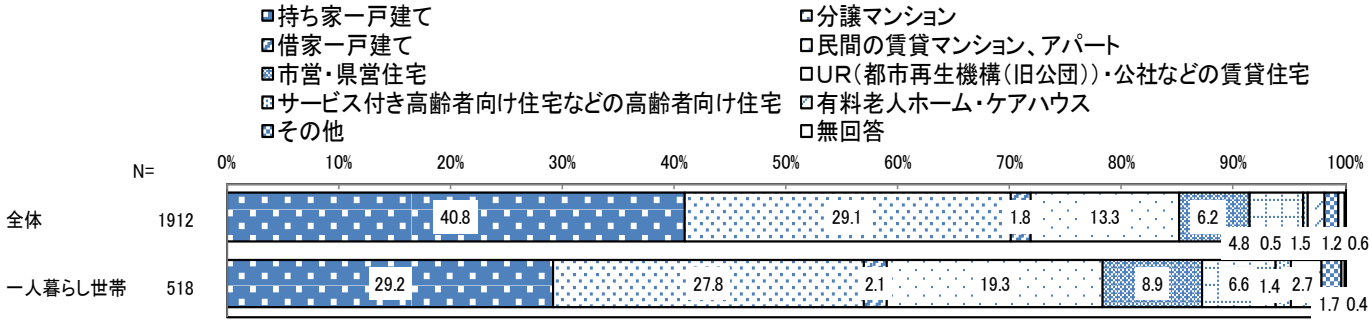
１．住まい

（１）住居形態（問９・問９－１）

◇住居形態は、「持ち家一戸建て」が 40.8%で最も高く、次いで「分譲マンション」が 29.1%となっていて、これらを合わせた『持ち家』が 69.9%となっている。ただし一人暮らし世帯に限ると『持ち家』が 57.0%と他の世帯構成と比べて低くなっている。【図表 3-1-1】

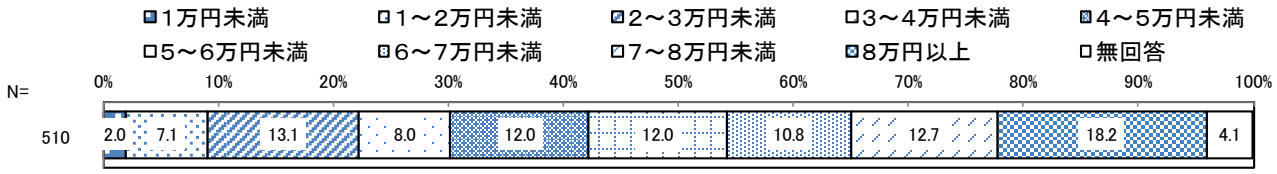
◇「借家一戸建て」「民間の賃貸マンション、アパート」「市営・県営住宅」「ＵＲ（都市再生機構（旧公団））・公社などの賃貸住宅」「サービス付き高齢者向け住宅などの高齢者向け住宅」を合わせた『賃貸住宅』に住んでいる人の１か月の家賃は、「８万円以上」が 18.2%で最も高く、次いで「2～3 万円未満」が 13.1%、「7～8 万円未満」が 12.7%となっている。【図表 3-1-2】

【図表 3-1-1 住居形態（全体・一人暮らし）】



	持ち家
全体	69.9
一人暮らし世帯	57.0

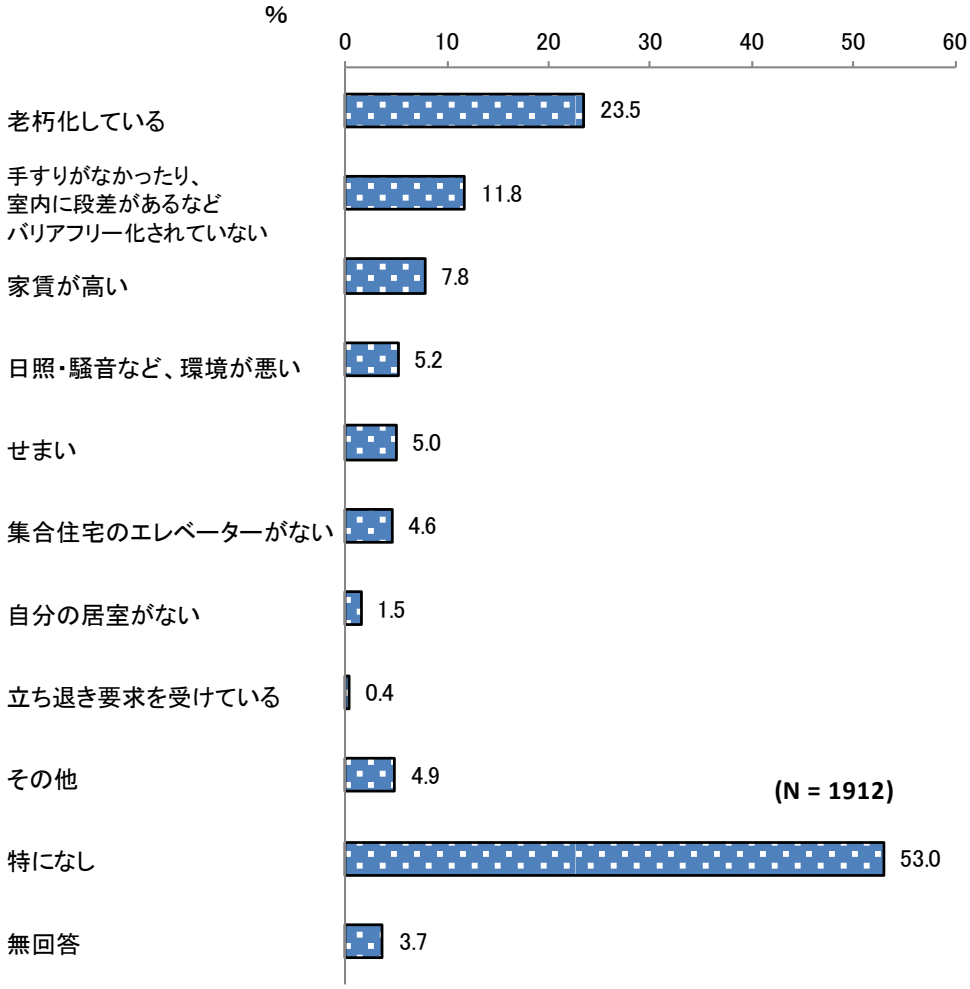
【図表 3-1-2 住まいの１か月の家賃】



（２）困りごと（問 10）

◇現在の住まいで困っていることは、「特になし」が 53.0%で最も高くなっており、半数以上が今のところ住居に不便を感じていない。困っていることは、「老朽化している」が 23.5%で最も高く、次いで「手すりがなかったり、室内に段差があるなどバリアフリー化されていない」が 11.8%となっている。【図表 3-1-3】

【図表 3-1-3 住まいで困っていること[複数回答]】



２．健康状態

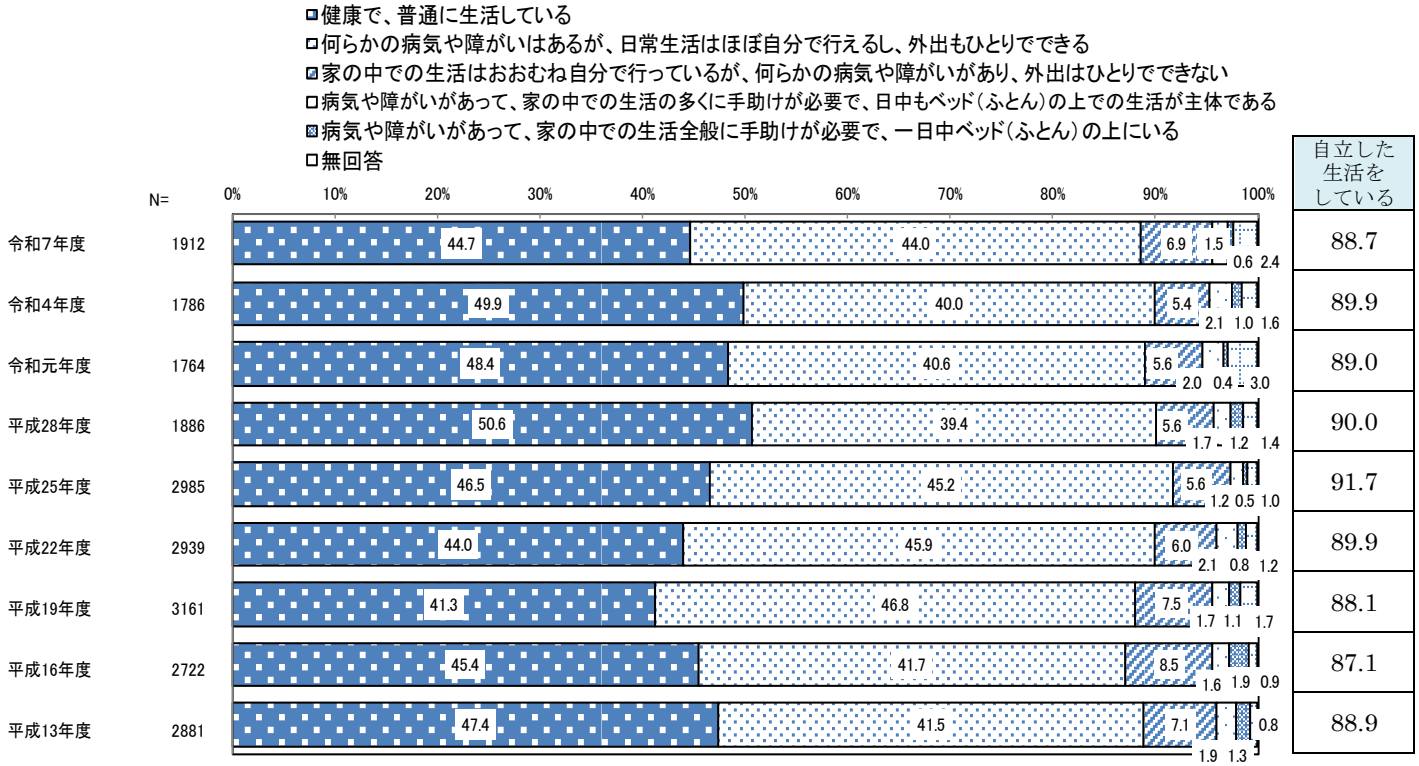
（１）健康状態（問 12）

◇現在の健康状態は、「健康で、普通に生活している」の 44.7%と、「何らかの病気や障がいはあるが、日常生活はほぼ自分で行えるし、外出もひとりでできる」の 44.0%を合わせた『自立した生活をしている』が 88.7%となっている。【図表 3-2-1】

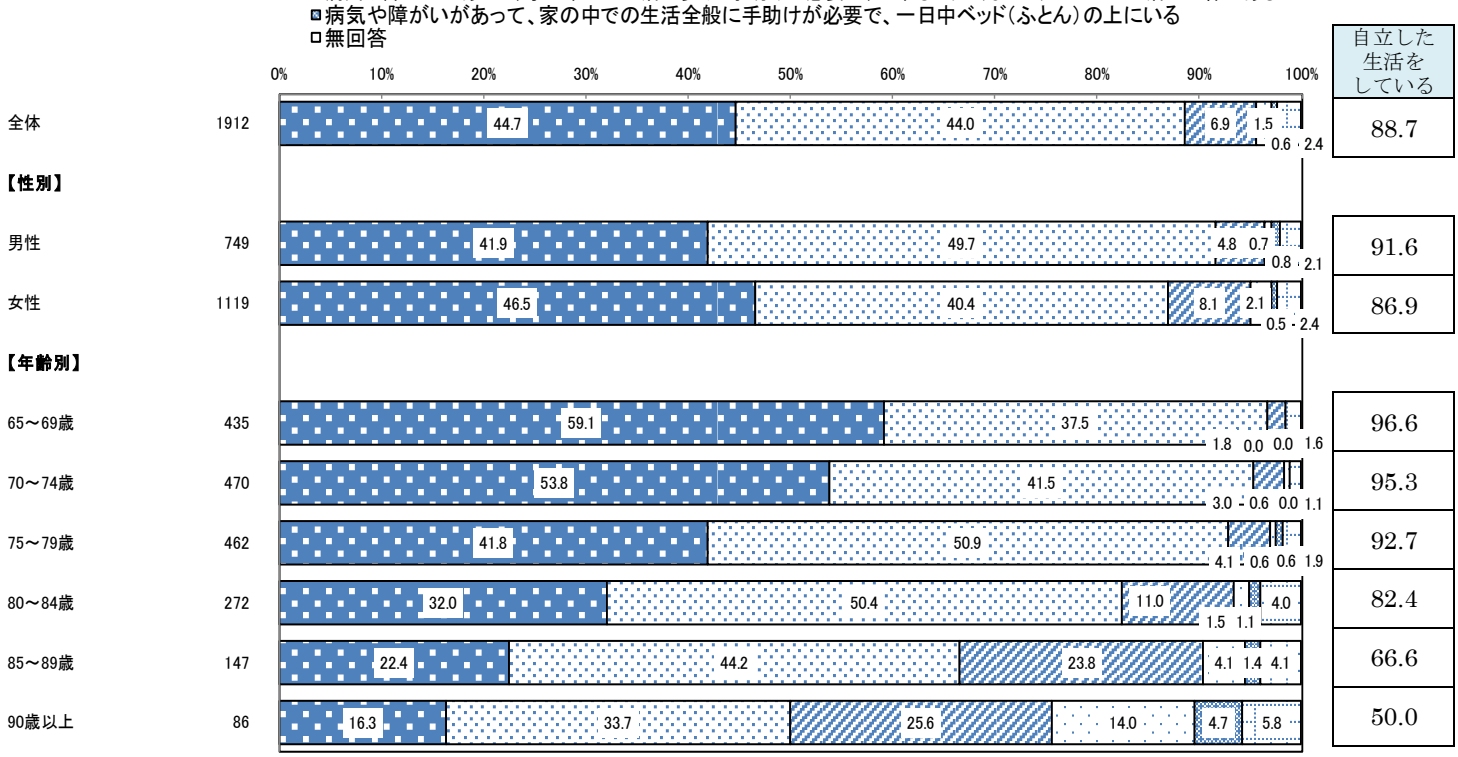
◇過去の調査結果と比較すると、「健康で、普通に生活している」は、今回やや減少する結果となった。ただし減少幅の分は「何らかの病気や障がいはあるが、日常生活はほぼ自分で行えるし、外出もひとりでできる」が増加しており、前回調査と比べて『自立した生活をしている』に大きな変化はみられない。【図表 3-2-1】

◇年齢別にみると、『自立した生活をしている』は 79 歳以下では９割以上、80～84 歳では８割以上、85～89 歳では 7 割弱、90 歳以上では 5 割と、年齢が高くなるほど割合は減少している。【図表 3-2-2】

【図表 3-2-1 現在の健康状態（経年比較）】



【図表 3-2-2 現在の健康状態（性別・年齢別）】



		自立した生活をしている
全体	1912	88.7
【性別】		
男性	749	91.6
女性	1119	86.9
【年齢別】		
65～69歳	435	96.6
70～74歳	470	95.3
75～79歳	462	92.7
80～84歳	272	82.4
85～89歳	147	66.6
90歳以上	86	50.0

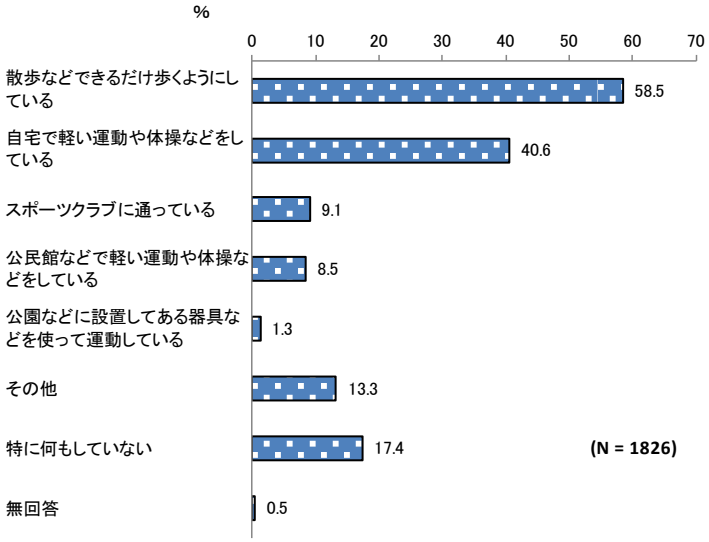
（２）健康づくりや介護予防（問 12－１・問 12－５・問 27）

◇運動習慣の状況は、「散歩などできるだけ歩くようにしている」が 58.5%で最も高く、次いで「自宅で軽い運動や体操などをしている」が 40.6%、「特に何もしていない」が 17.4%となっている。【図表 3-2-3】

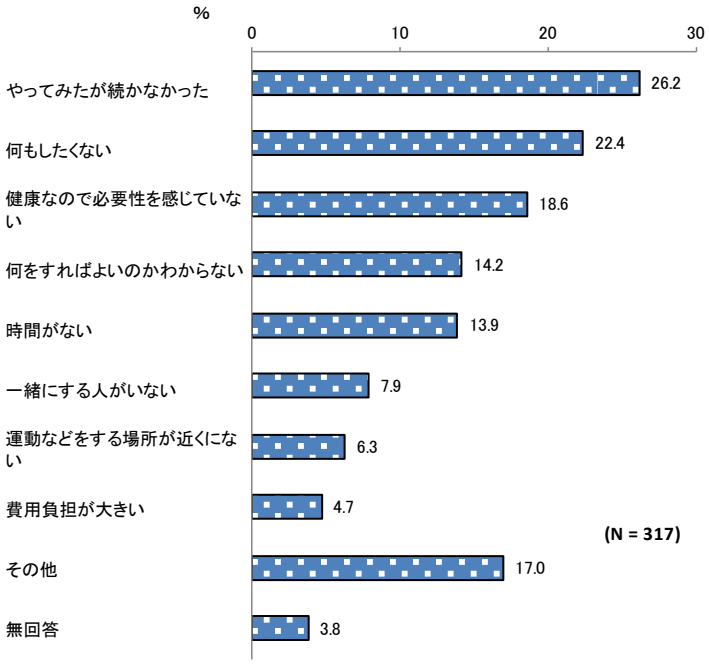
◇運動を何もしていない理由としては、「やってみたが続かなかった」が 26.2%で最も高く、次いで「何もしたくない」が 22.4%、「健康なので必要性を感じていない」が 18.6%となっている。【図表 3-2-4】

◇健康づくりや介護予防で福岡市に力を入れてほしいことは、「体力や筋力の維持・向上のための取組み」が 46.0%で最も高く、次いで「生きがいづくりのための取組み」が 38.4%、「フレイル予防についての取組み」が 37.2%となっている。【図表 3-2-5】

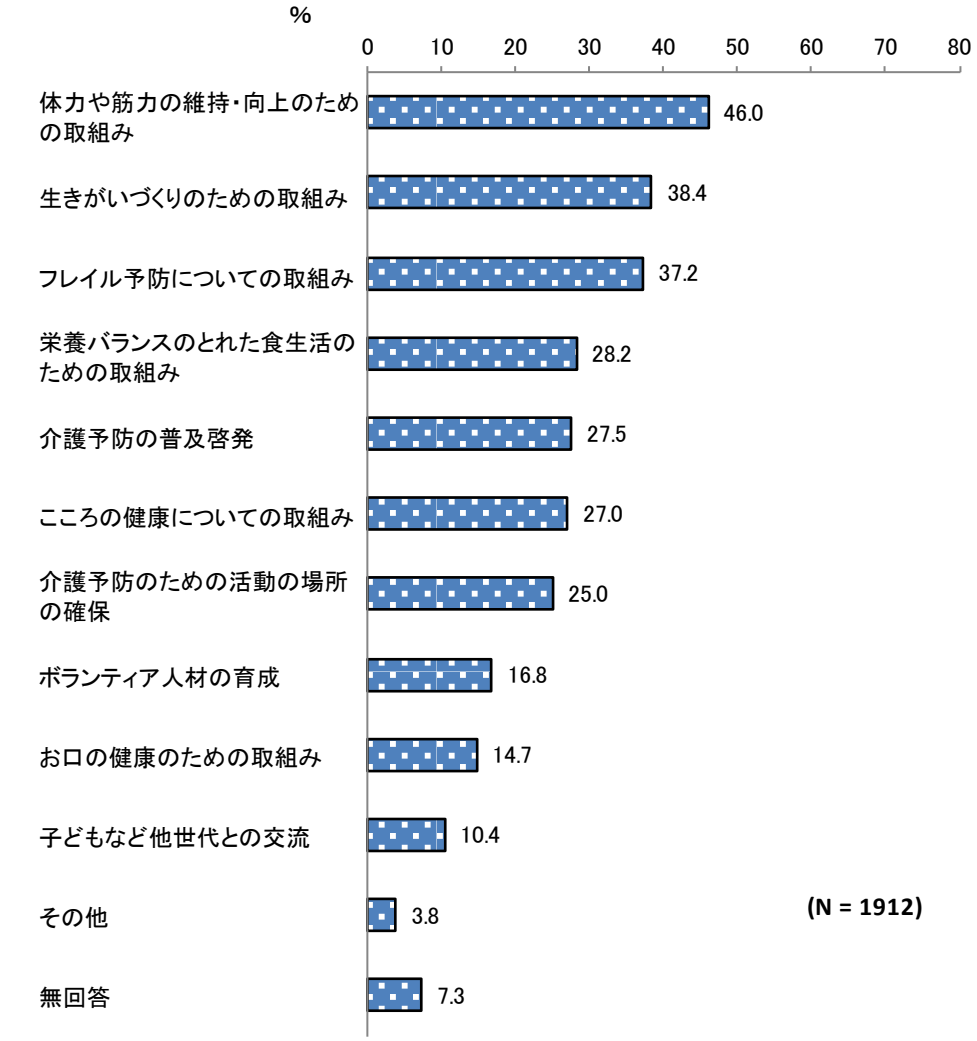
【図表 3-2-3 運動習慣の状況[複数回答]】



【図表 3-2-4 運動していない理由[複数回答]】



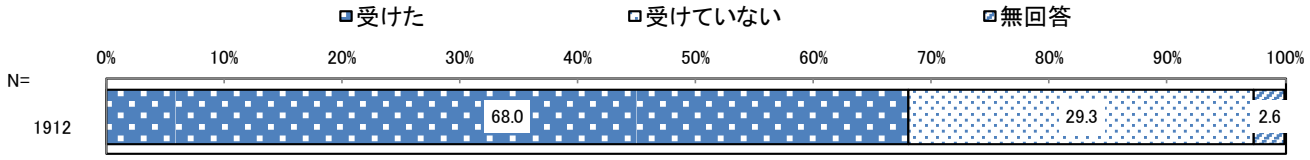
【図表 3-2-5 健康づくりや介護予防で福岡市に力を入れてほしいこと[複数回答]】



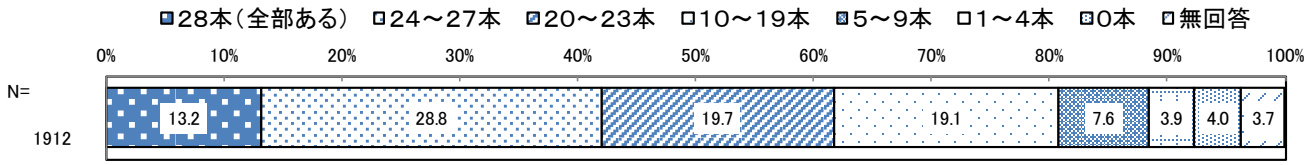
（３）口腔（問 15・問 16・問 20）

◇過去 1 年間の歯科の定期健診受診の有無は、「受けた」が 68.0%、「受けていない」が 29.3%となっている。【図表 3-2-6】
◇歯の本数（さし歯を含む）は、「24～27 本」が 28.8%で最も高く、次いで「20～23 本」が 19.7%、「10～19 本」が 19.1%となっている。【図表 3-2-7】
◇歯みがきの頻度は、「1 日 2 回」が 48.8%で最も高く、次いで「1 日 3 回以上」が 28.0%、「1 日 1 回」が 17.3%となっている。【図表 3-2-8】

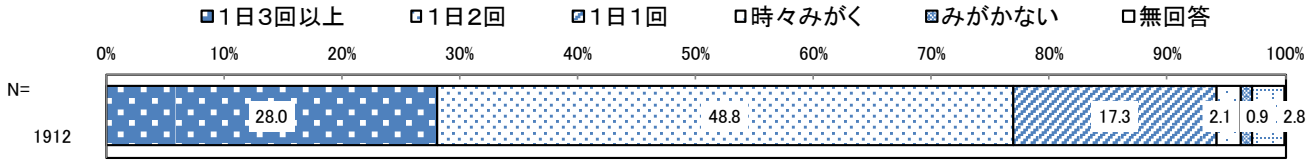
【図表 3-2-6 歯科の定期健診受診の有無】



【図表 3-2-7 歯の本数】



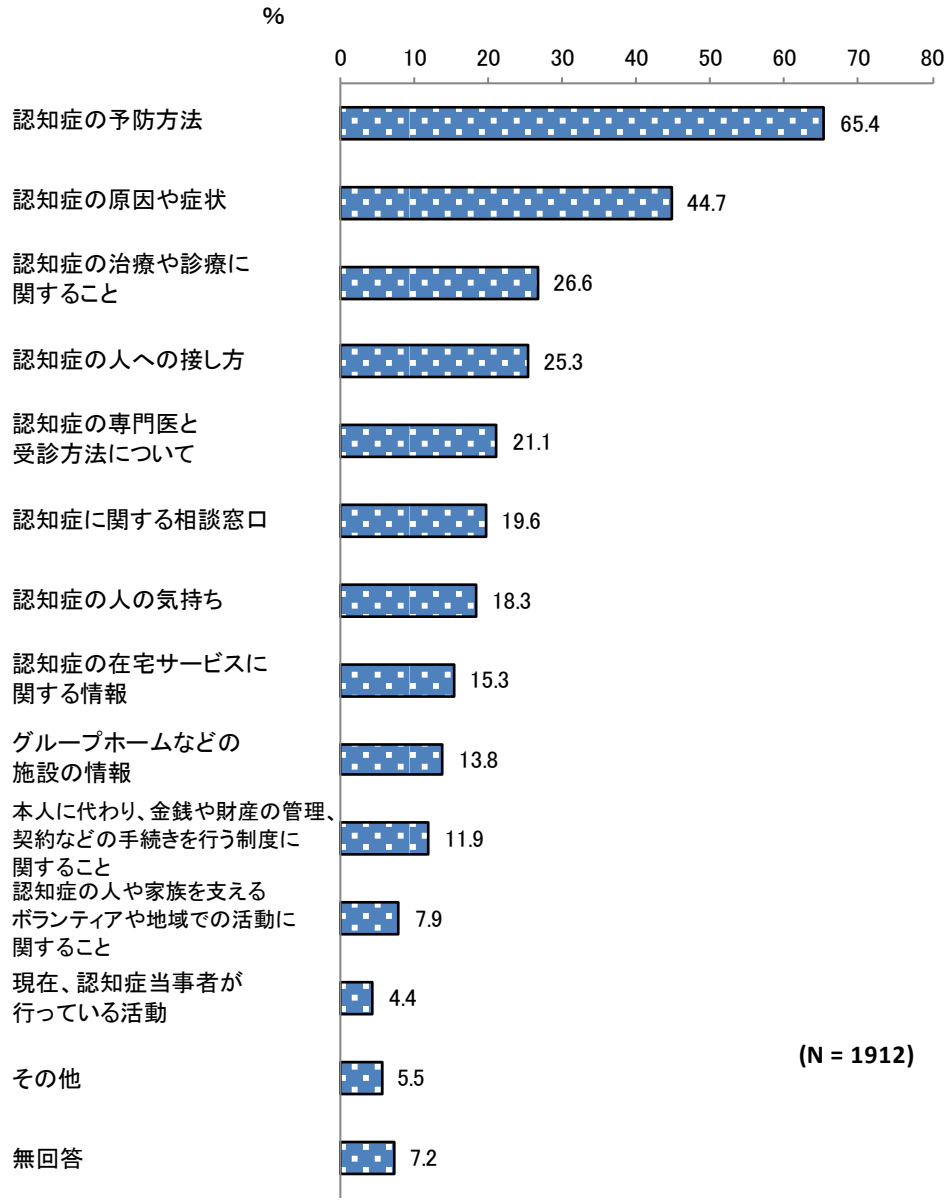
【図表 3-2-8 歯みがきの頻度】



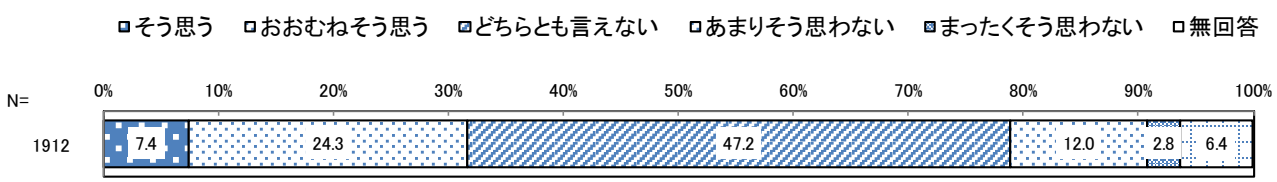
（４）認知症（問 23・問 26）

◇認知症に関して知りたい内容は、「認知症の予防方法」が 65.4％で最も高く、次いで「認知症の原因や症状」が 44.7％、「認知症の治療や診療に関すること」が 26.6％となっている。【図表 3-2-9】
◇福岡市が認知症の人にとって安心して暮らし続けることができるまちであるかの認識は、「そう思う」の 7.4％と、「おおむねそう思う」の 24.3％を合わせた『思う』が 31.7％となっている。【図表 3-2-10】

【図表 3-2-9 認知症に関して知りたい内容[複数回答]】



【図表 3-2-10 福岡市が認知症の人にとって安心して暮らし続けることができるまちであるかの認識】

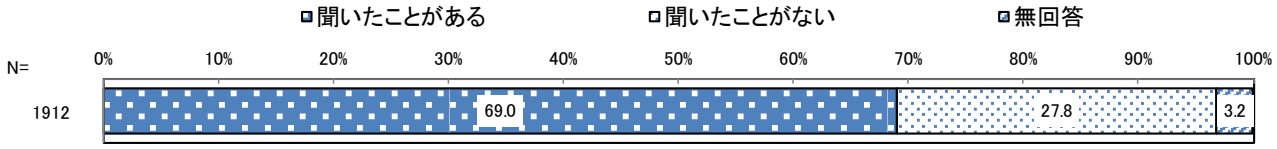


３．医療・福祉

（１）いきいきセンターふくおか（地域包括支援センター）（問 28）

◇いきいきセンターふくおかについて、「聞いたことがある」が 69.0%、「聞いたことがない」が 27.8%となっている。【図表 3-3-1】

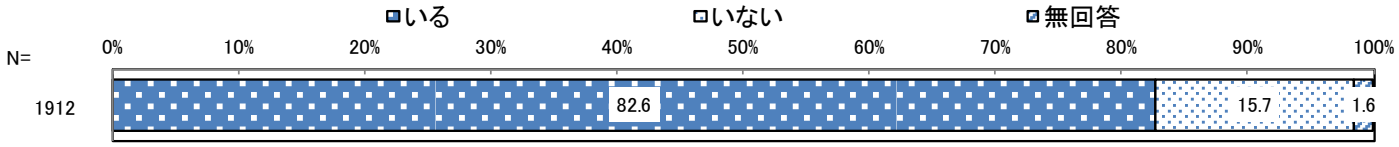
【図表 3-3-1 いきいきセンターふくおか（地域包括支援センター）の認知度】



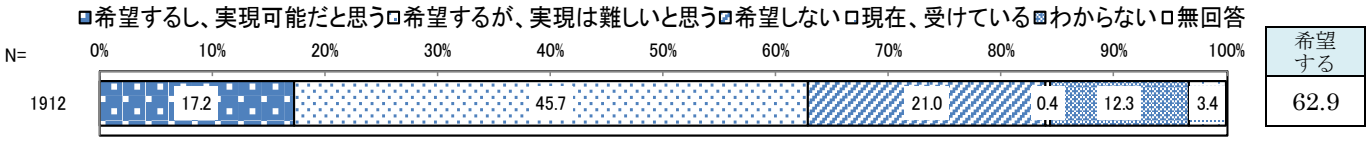
（２）在宅医療（問 31・問 33・問 33－１・問 34）

◇かかりつけ医の有無は、「いる」が 82.6%、「いない」が 15.7%となっている。【図表 3-3-2】
◇在宅医療の希望は、「希望するし、実現可能だと思う」17.2%と「希望するが、実現は難しいと思う」45.7%を合わせた『希望する』が 62.9%、「希望しない」が 21.0%となっている。【図表 3-3-3】
◇在宅医療を希望しないまたは実現が難しい理由は、「家族に負担をかけるから」が 36.8%で最も高く、次いで「介護してくれる家族がいないから」が 12.2%となっている。【図表 3-3-4】
◇最期を迎えたい場所は、「医療機関」が 35.4%で最も高く、次いで「自宅（親族の家を含む）」が 25.8%となっている。【図表 3-3-5】

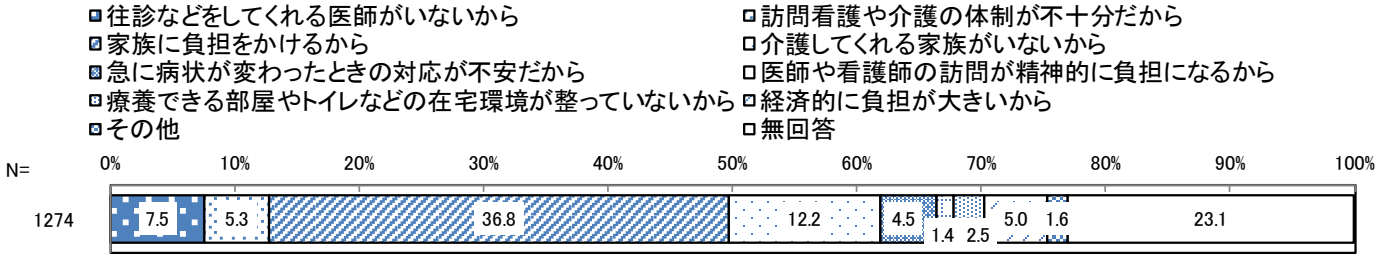
【図表 3-3-2 かかりつけ医の有無】



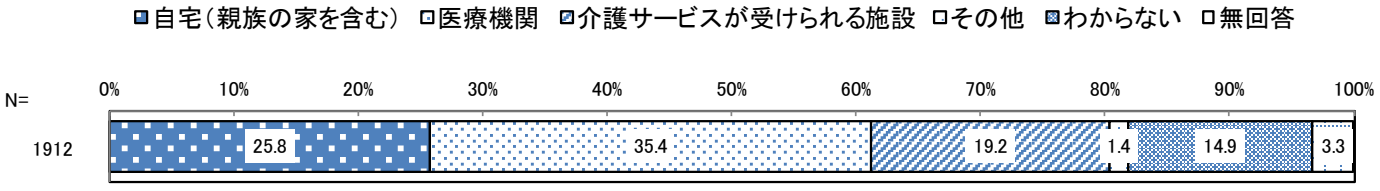
【図表 3-3-3 在宅医療の希望・実現可能性】



【図表 3-3-4 在宅医療を希望しない・実現が難しい理由】



【図表 3-3-5 最期を迎えたい場所】

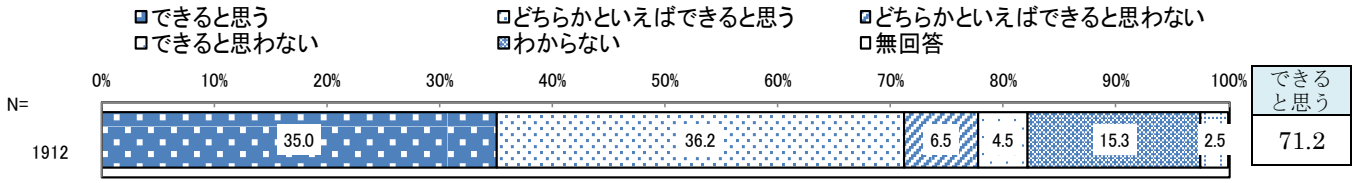


（３）今後の介護意向（問 35・問 36）

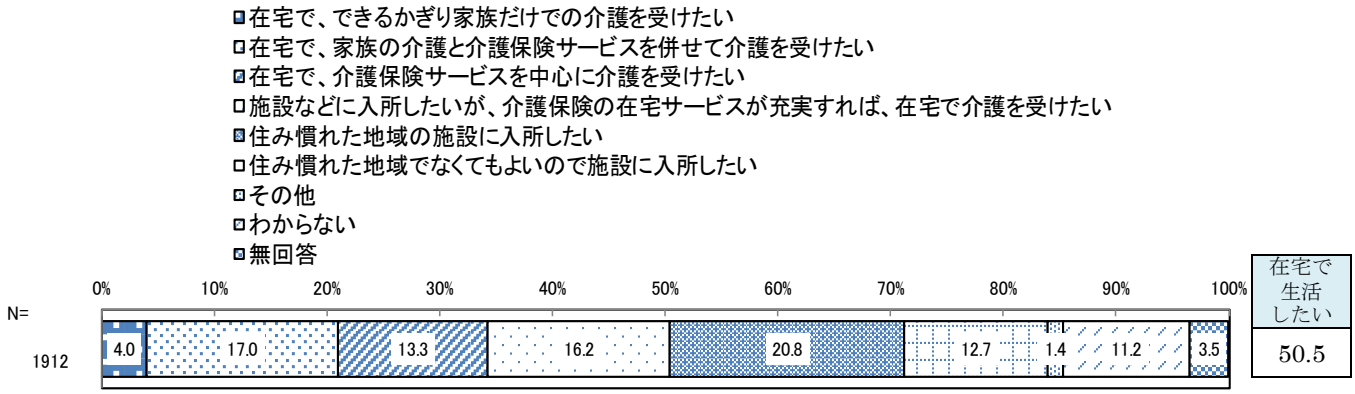
◇これから年齢を重ねても、住み慣れた地域で暮らし続けることができると思うかは、「できると思う」が 35.0%、「どちらかといえばできると思う」が 36.2%で、これらを合わせた『できると思う』が 71.2%となっている。【図表 3-3-6】

◇介護が必要になったときの意向は、「在宅で、できるかぎり家族だけでの介護を受けたい」、「在宅で、家族の介護と介護保険サービスを併せて介護を受けたい」、「在宅で、介護保険サービスを中心に介護を受けたい」、「施設などに入所したいが、介護保険の在宅サービスが充実すれば、在宅で介護を受けたい」を合わせた『在宅で生活したい』が 50.5%と半数を超えている。【図表 3-3-7】

【図表 3-3-6 住み慣れた地域で暮らし続けることができると思うか】



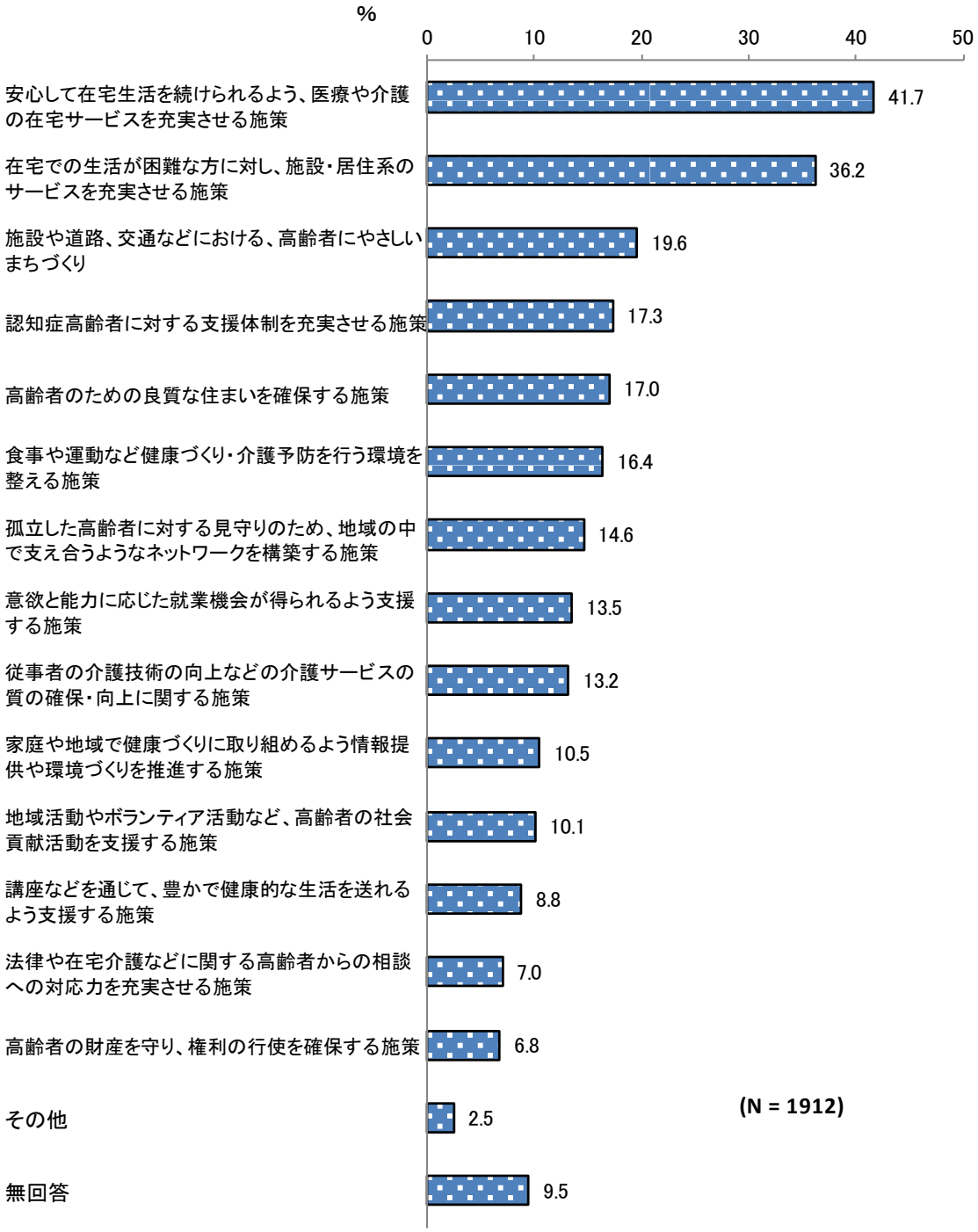
【図表 3-3-7 今後の介護の受け方の意向】



（４）行政への要望（問 40）

◇行政に力をいれてほしい高齢者に関する施策の内容は、「安心して在宅生活を続けられるよう、医療や介護の在宅サービスを充実させる施策」が 41.7%で最も高く、次いで「在宅での生活が困難な方に対し、施設・居住系のサービスを充実させる施策」が 36.2%、「施設や道路、交通などにおける、高齢者にやさしいまちづくり」が 19.6%となっている。【図表 3-3-8】

【図表 3-3-8 行政に力を入れてほしい高齢者に関する施策の内容[複数回答]】



第４章　介護サービス調査共通設問

「在宅サービス利用者調査」「在宅サービス未利用者調査」「施設等サービス利用者調査」の３つの調査に共通する設問については、各調査別の傾向が比較できるよう「共通設問」として掲載した。

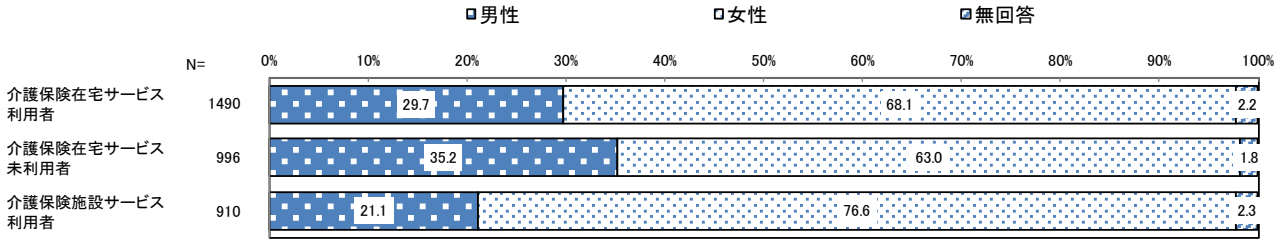
１．回答者の属性

（１）性別・年齢（利用者：問２・問３、未利用者：問２・問３、施設：問２・問３）

◇回答者の性別は、在宅サービス利用者では「男性」が 29.7%、「女性」が 68.1%、在宅サービス未利用者では「男性」が 35.2%、「女性」が 63.0%、施設サービス利用者では「男性」が 21.1%、「女性」が 76.6%となっている。【図表 4-1-1】

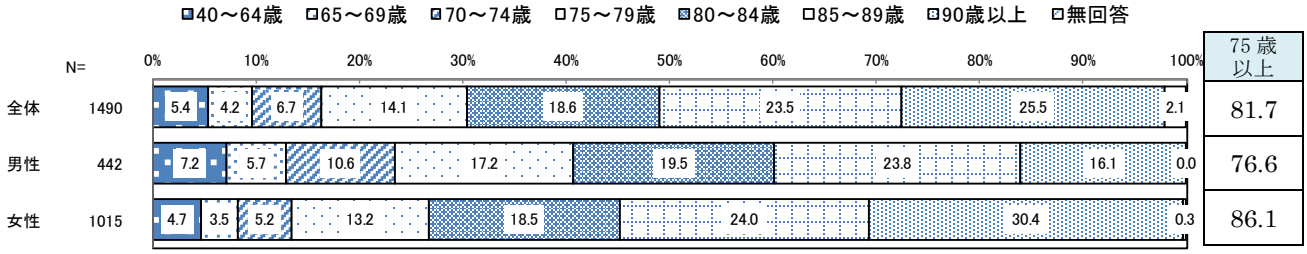
◇75 歳以上の後期高齢者の割合は、在宅サービス利用者では 81.7%、在宅サービス未利用者では 85.6%、施設サービス利用者では 89.1%となっている。【図表 4-1-2】

【図表 4-1-1 性別】

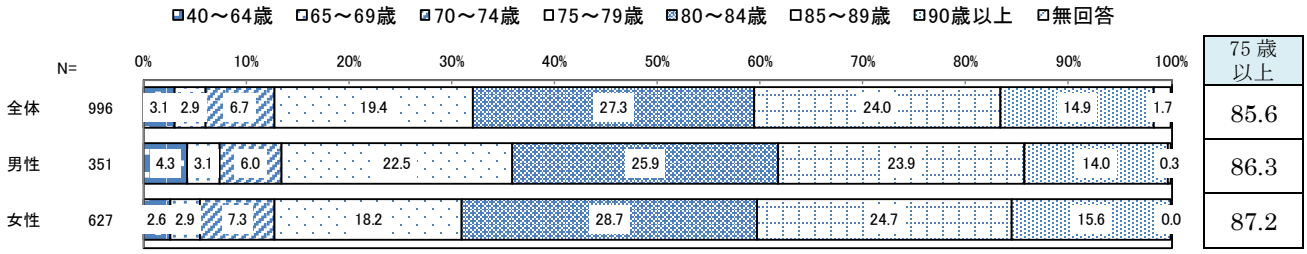


【図表 4-1-2 年齢（性別）】

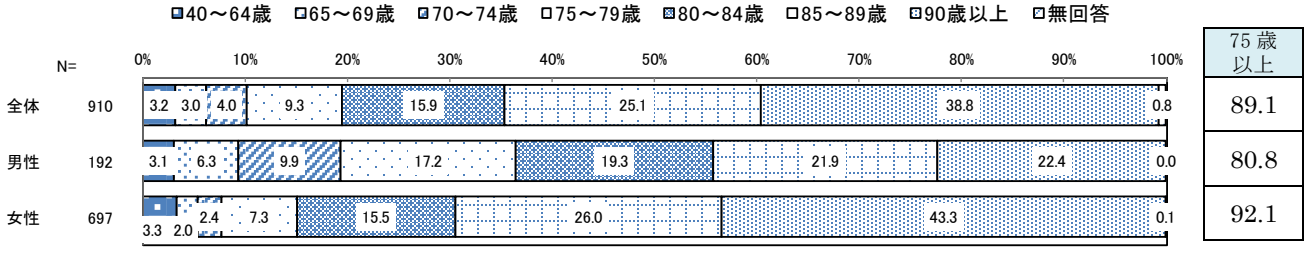
在宅サービス利用者



在宅サービス未利用者



施設等サービス利用者

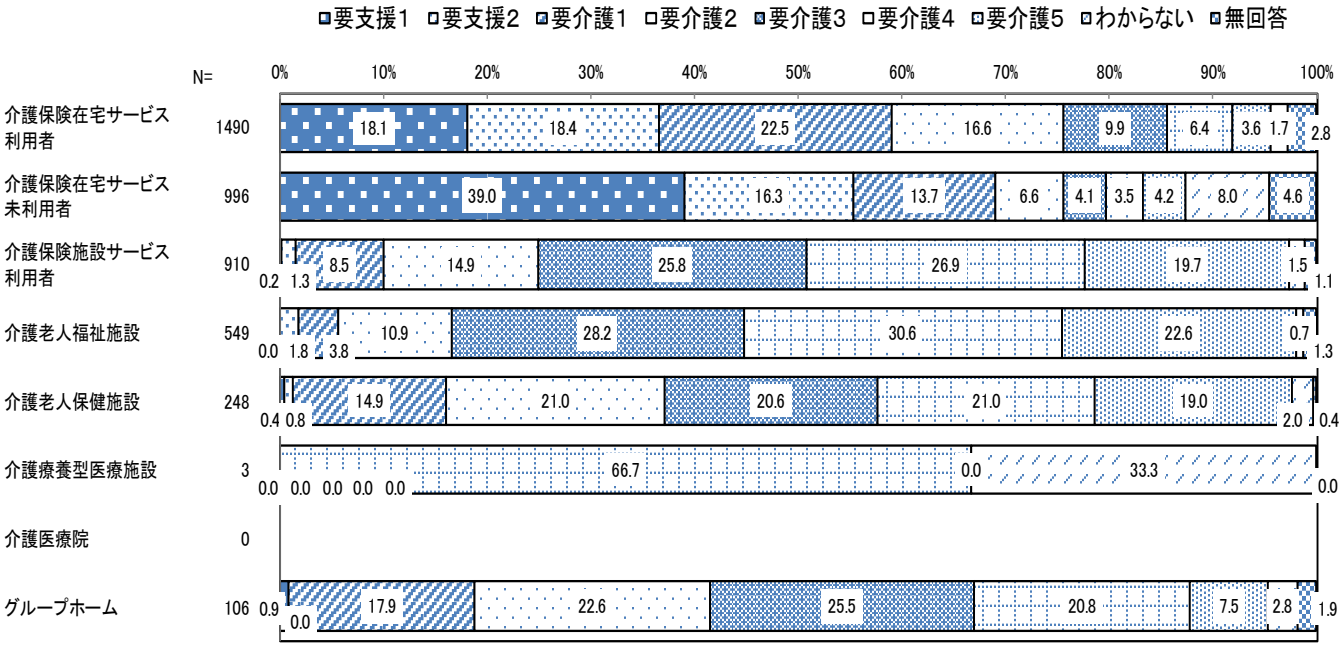


（２）要介護度（利用者：問７、未利用者：問７、施設：問４）

◇回答者の要介護度は、在宅サービス利用者と在宅サービス未利用者ともに要介護度が軽い人が半数を超えており、「要支援 1」「要支援 2」「要介護 1」を合わせた『要介護 1 以下』が、在宅サービス利用者では 59.0%、在宅サービス未利用者では 69.0%となっている。【図表 4-1-3】

◇施設サービス利用者では要介護度が重い人が多く、「要介護 3」「要介護 4」「要介護 5」を合わせた『要介護 3 以上』が 72.4%となっている。施設別にみると、介護老人福祉施設の『要介護 3 以上』は、81.4%となっている。【図表 4-1-3】

【図表 4-1-3 要介護度（施設別）】



	要介護 1 以下	要介護 3 以上
介護保険在宅サービス利用者	59.0	19.9
介護保険在宅サービス未利用者	69.0	11.8
介護保険施設サービス利用者	10.0	72.4
（施設別）介護老人福祉施設	5.6	81.4
（施設別）介護老人保健施設	16.1	60.6
（施設別）介護療養型医療施設	0.0	66.7
（施設別）介護医療院	0.0	0.0
（施設別）グループホーム	18.8	53.8

２．在宅医療

（利用者：問 19・問 22・問 22－１・問 24、未利用者：問 24・問 27・問 27－１・問 28、施設：問 13）

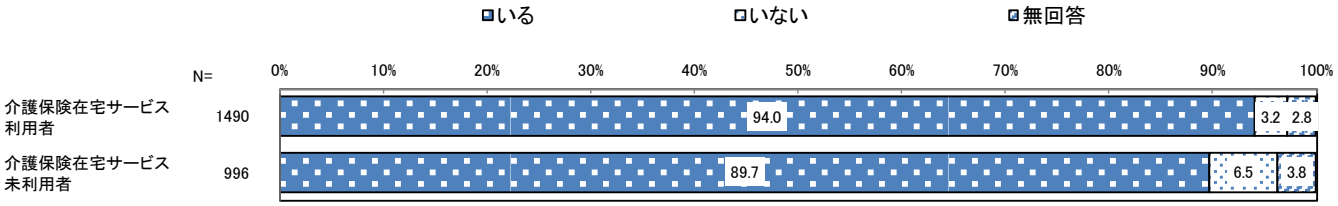
◇かかりつけ医の有無は、「いる」が在宅サービス利用者では 94.0%、在宅サービス未利用者では 89.7%となっている。【図表 4-2-1】

◇在宅医療の希望は、「希望するし、実現可能だと思う」と「希望するが、実現は難しいと思う」を合わせた『希望する』が、在宅サービス利用者では 42.6%、在宅サービス未利用者では 37.7%となっている。また、「希望しない」が在宅サービス利用者では 21.4%、在宅サービス未利用者では 17.6%となっている。【図表 4-2-2】

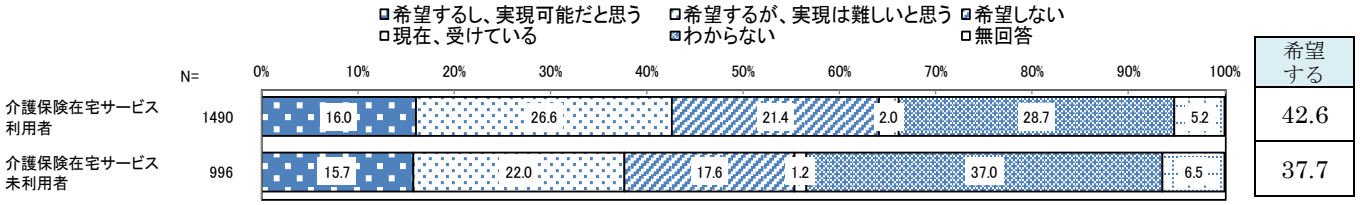
◇在宅医療を希望しないまたは実現が難しいと思う理由は、「家族に負担をかけるから」が在宅サービス利用者で 34.1%、在宅サービス未利用者で 25.6%とそれぞれ最も高く、次いで在宅サービス利用者では「急に病状が変わったときの対応が不安だから」が 14.1%、在宅サービス未利用者では「介護してくれる家族がいないから」が 13.2%となっている。【図表 4-2-3】

◇最期を迎えたい場所は、「医療機関」が在宅サービス利用者で 28.6%、在宅サービス未利用者で 31.4%とそれぞれ最も高く、次いで「自宅（家族や親族の家を含む）」が在宅サービス利用者で 28.5%、在宅サービス未利用者で 23.9%となっている。施設サービス利用者では、「現在、入っている施設」が 42.3%で最も高くなっている。【図表 4-2-4】

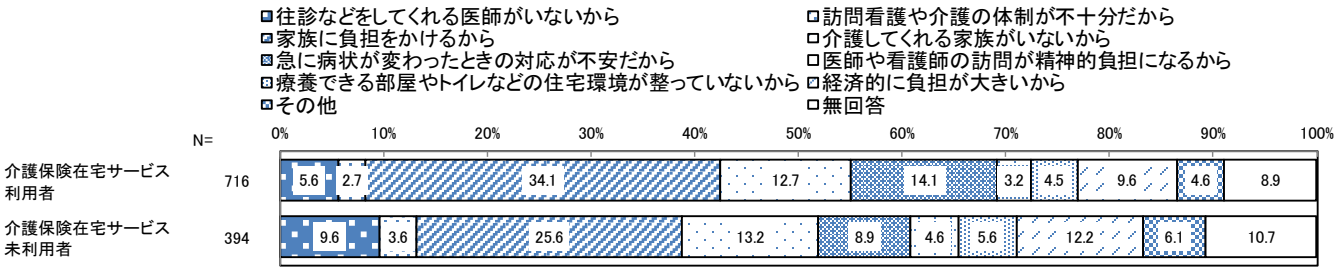
【図表 4-2-1 かかりつけ医の有無】



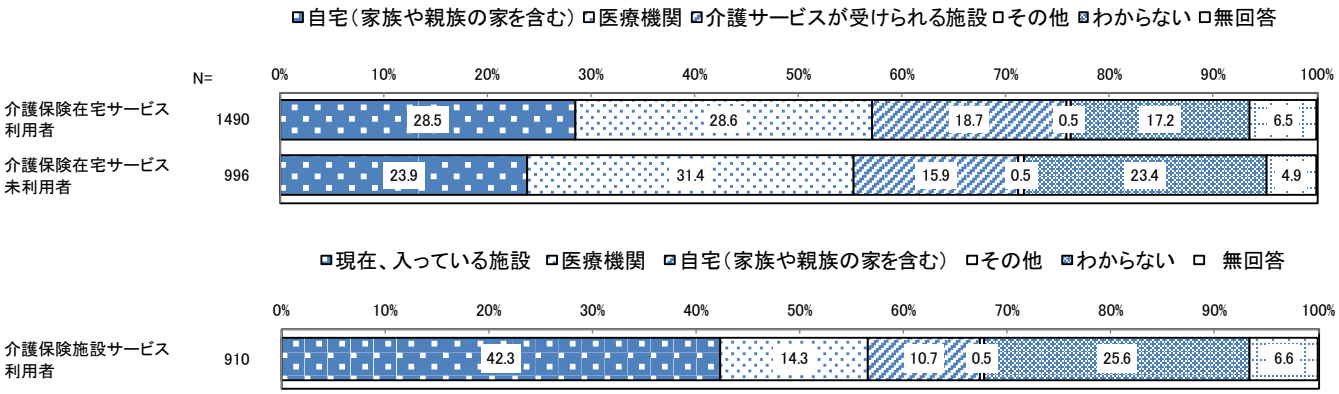
【図表 4-2-2 在宅医療の希望・実現可能性】



【図表 4-2-3 在宅医療を希望しない・実現が難しい理由】



【図表 4-2-4 最期を迎えたい場所】

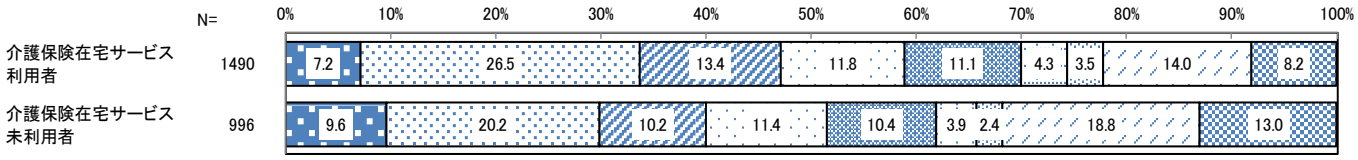


３．今後の介護の受け方

（利用者：問 23、未利用者：問 35）

◇今後の介護の受け方は、「在宅で、できるかぎり家族や親族だけでの介護を受けたい」「在宅で、家族や親族の介護と介護保険サービスを併せて介護を受けたい」「在宅で、介護保険サービスを中心に介護を受けたい」「施設などに入所したいが、介護保険の在宅サービスが充実すれば、これからも在宅で生活したい」を合わせた『在宅で生活したい』の割合が在宅サービス利用者では 58.9%、在宅サービス未利用者では 51.4%となっている。【図表 4-3-1】

【図表 4-3-1 今後の介護の受け方（本人）】



	在宅で生活したい
介護保険在宅サービス利用者	58.9
介護保険在宅サービス未利用者	51.4

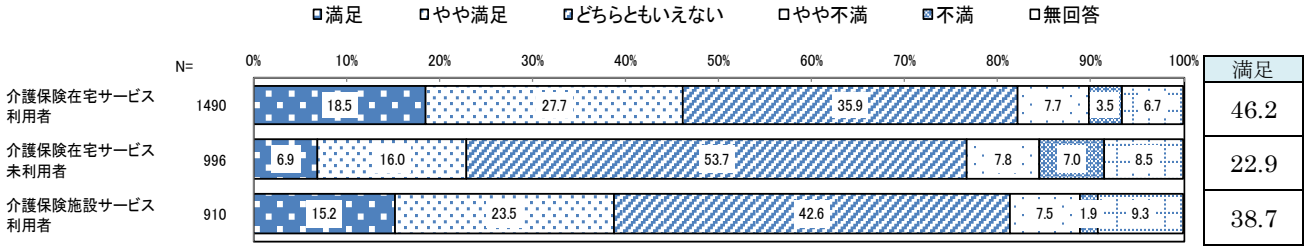
４．介護保険制度

（利用者：問 28・問 29、未利用者：問 29・問 30、施設：問 21・問 22）

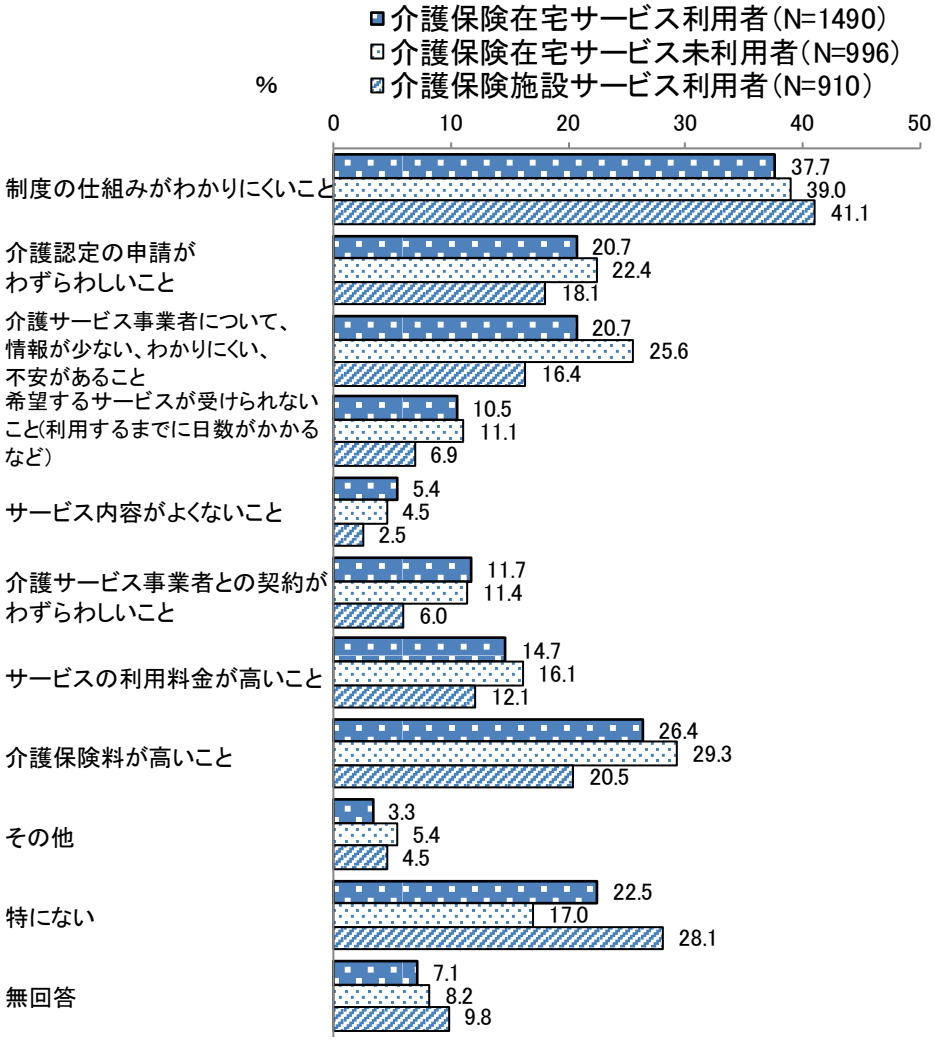
◇介護保険制度全体の満足度は、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』が在宅サービス利用者では 46.2%、在宅サービス未利用者が 22.9%、施設サービス利用者では 38.7%となっている。【図表 4-4-1】

◇介護保険制度で不満に思うことは、「制度の仕組みがわかりにくいこと」が在宅サービス利用者で 37.7%、在宅サービス未利用者で 39.0%、施設サービス利用者で 41.1%とそれぞれ最も高くなっている。【図表 4-4-2】

【図表 4-4-1 介護保険制度全体の満足度】



【図表 4-4-2 介護保険制度で不満に思うこと[複数回答]】



５．介護者

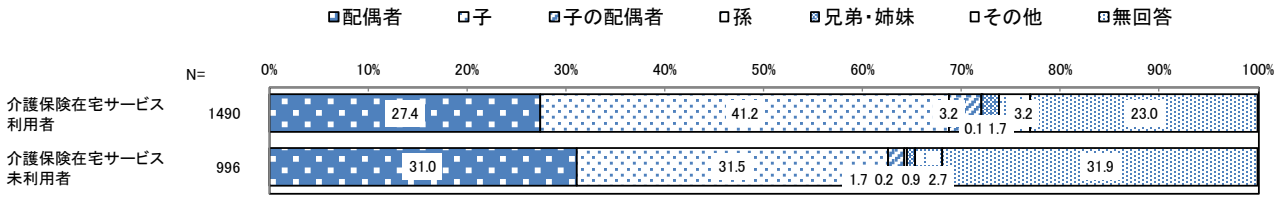
「在宅サービス利用者調査」「在宅サービス未利用者調査」の２調査において、主に介護をしている方の状況も回答してもらった。

（１）介護者の属性

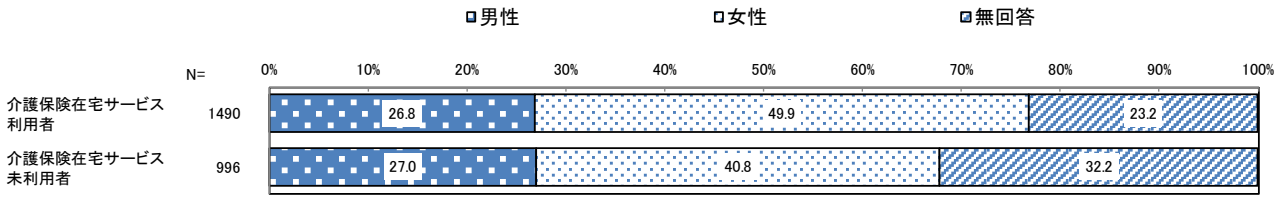
（利用者：問 36・問 37・問 38・問 39、未利用者：問 35・問 36・問 37・問 38）

◇主な介護者の続柄は、「子」が在宅サービス利用者で 41.2%、在宅サービス未利用者で 31.5%とそれぞれ最も高くなっている。【図表 4-5-1】
◇主な介護者の同居状況は、在宅サービス利用者では「同居」が 54.8%、「別居」が 22.1%、在宅サービス未利用者では「同居」が 51.3%、「別居」が 16.7%となっている。【図表 4-5-3】
◇主な介護者の年齢は、『60 代以上』が、在宅サービス利用者では 55.5%、在宅サービス未利用者では 46.6%となっており、５割前後となっている。【図表 4-5-4】

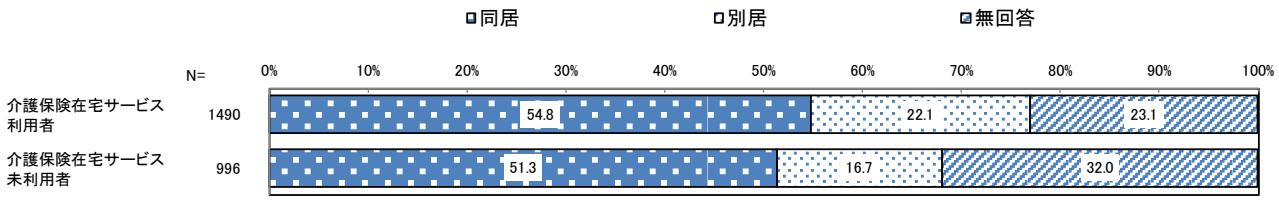
【図表 4-5-1 主な介護者の続柄】



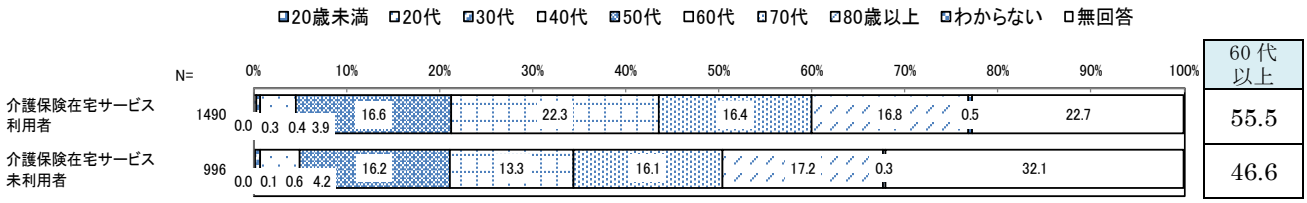
【図表 4-5-2 主な介護者の性別】



【図表 4-5-3 主な介護者の同居状況】



【図表 4-5-4 主な介護者の年齢】



	60 代以上
介護保険在宅サービス利用者	55.5
介護保険在宅サービス未利用者	46.6

（２）介護者の就業

（利用者：問 40・問 41・問 41－１・問 41－３、未利用者：問 39・問 40・問 40－１・問 40－３）

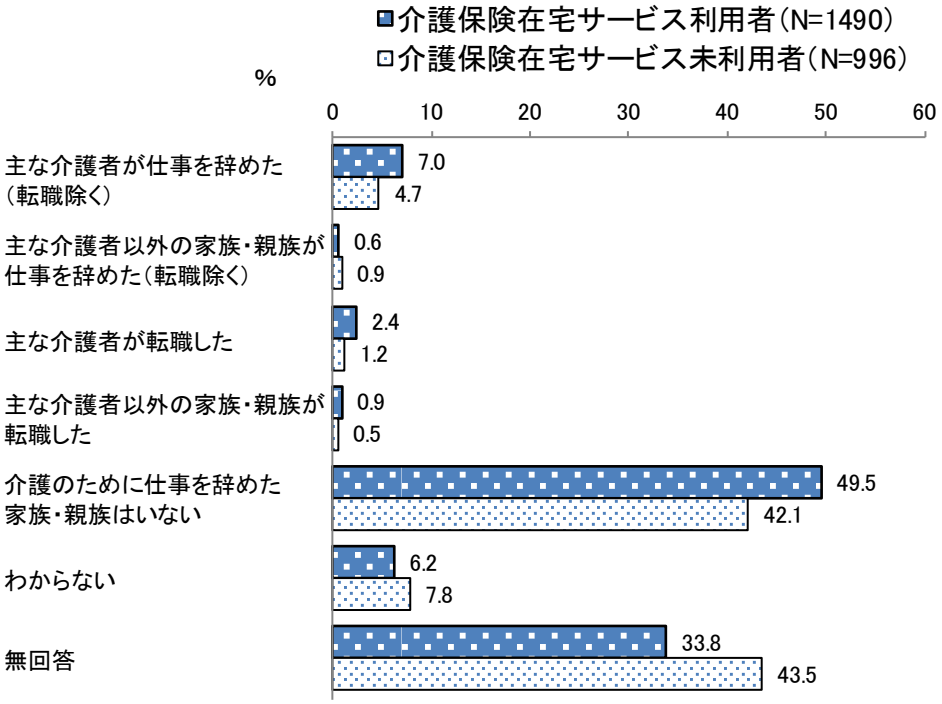
◇介護離職の状況は、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が在宅サービス利用者で 49.5%、在宅サービス未利用者で 42.1%とそれぞれ最も高くなっている。【図表 4-5-5】

◇主な介護者の勤務形態は、「フルタイムで働いている」と「パートタイムで働いている」を合わせた『働いている』が、在宅サービス利用者では 32.3%、在宅サービス未利用者では 29.1%となっている。【図表 4-5-6】

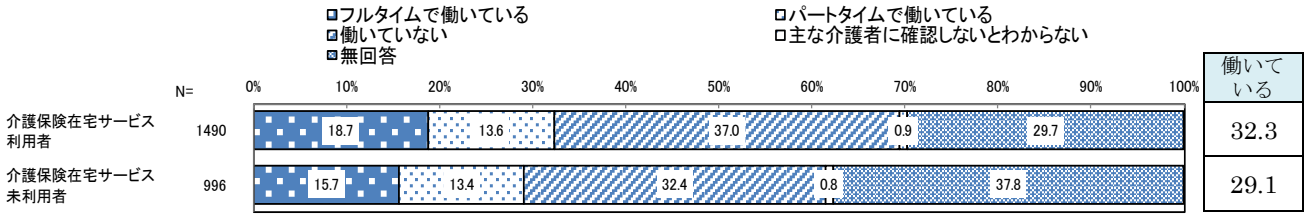
◇主な介護者の介護に伴う勤務調整の状況は、「特に行っていない」が最も高く、介護保険在宅サービス利用者で 39.6%、未利用者で 51.2%となっている。【図表 4-5-7】

◇主な介護者の仕事と介護の両立継続可能性は、「問題はあるが、何とか続けていける」が在宅サービス利用者で 46.7%、在宅サービス未利用者で 39.8%と、ともに最も高くなっている。【図表 4-5-8】

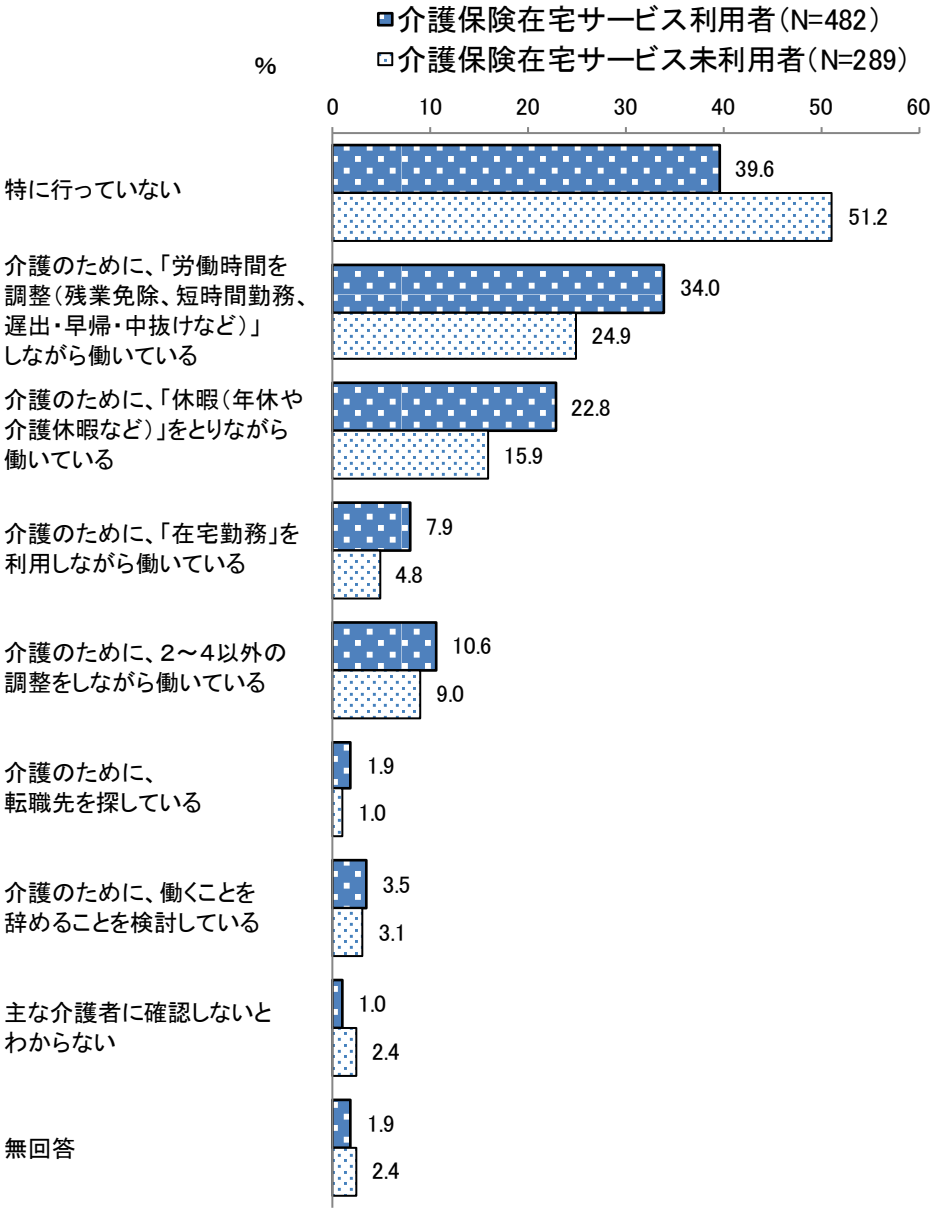
【図表 4-5-5 介護離職の状況[複数回答]】



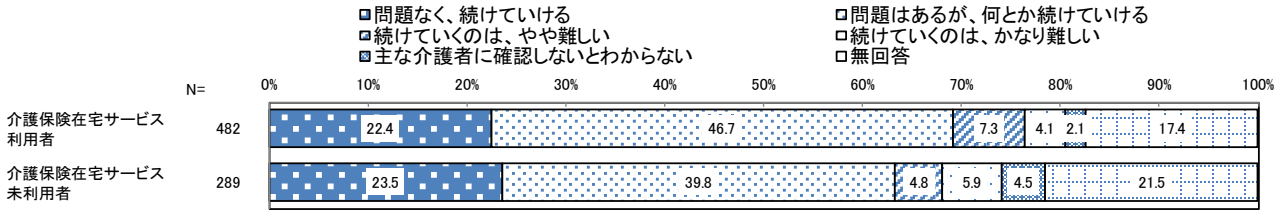
【図表 4-5-6 主な介護者の勤務形態】



【図表 4-5-7 主な介護者の介護に伴う勤務調整の状況[複数回答]】



【図表 4-5-8 主な介護者の仕事と介護の両立の継続可能性】



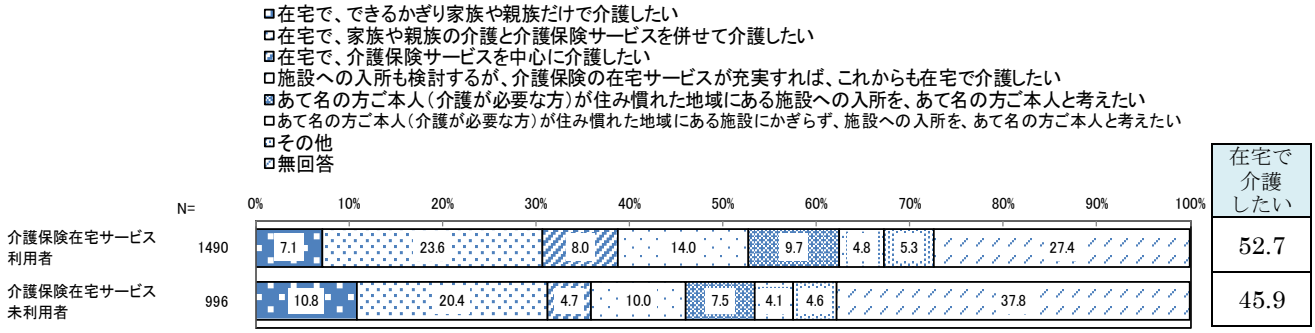
（３）今後の介護の仕方

（利用者：問 46・問 47、未利用者：問 44・問 45）

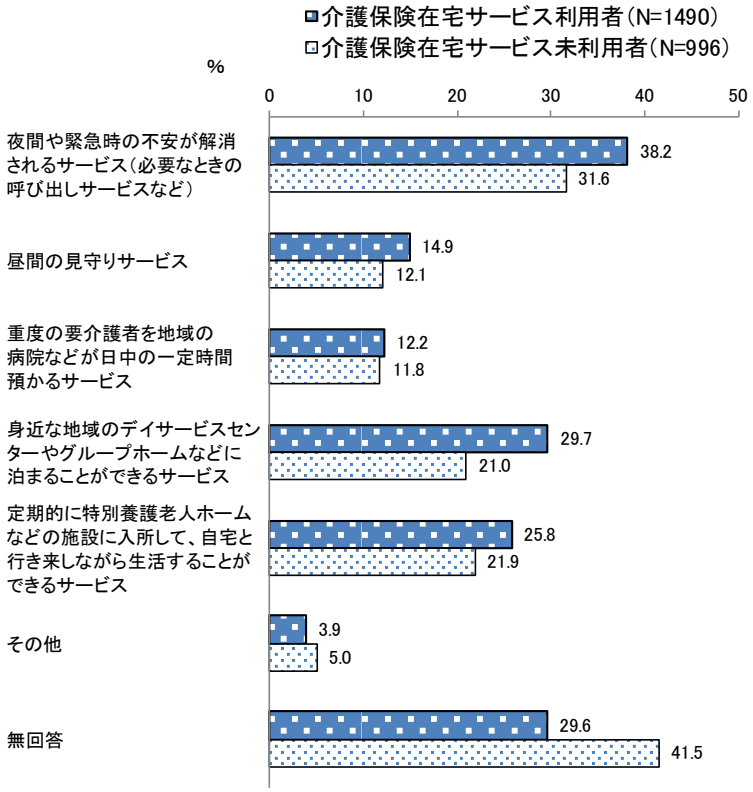
◇今後の介護の仕方は、『在宅で介護したい』（「在宅で、できるかぎり家族や親族だけで介護したい」「在宅で、家族や親族の介護と介護保険サービスを併せて介護したい」「在宅で、介護保険サービスを中心に介護したい」「施設への入所も検討するが、介護保険の在宅サービスが充実すれば、これからも在宅で介護したい」の合計）が、在宅サービス利用者では 52.7%、在宅サービス未利用者では 45.9%となっている。【図表 4-5-9】

◇在宅で介護を続けるために必要性が高いサービスの内容は、「夜間や緊急時の不安が解消されるサービス（必要なときの呼び出しサービスなど）」が在宅サービス利用者で 38.2%、在宅サービス未利用者で 31.6%と、ともに最も高くなっている。【図表 4-5-10】

【図表 4-5-9 今後の介護の仕方】



【図表 4-5-10 在宅で介護を続けるために必要性が高いサービスの内容[複数回答]】



第５章　介護保険在宅サービス利用者調査

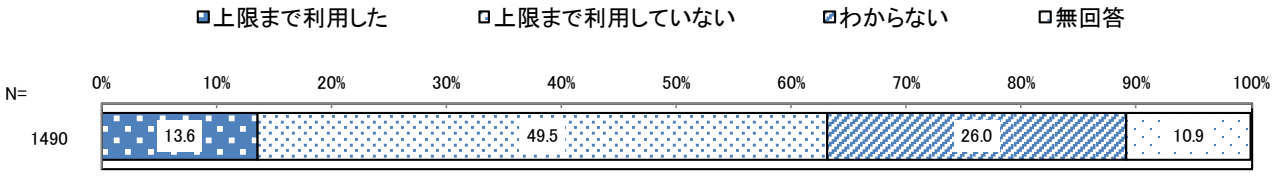
１．介護保険サービスの利用状況

（問 18・問 18－１）

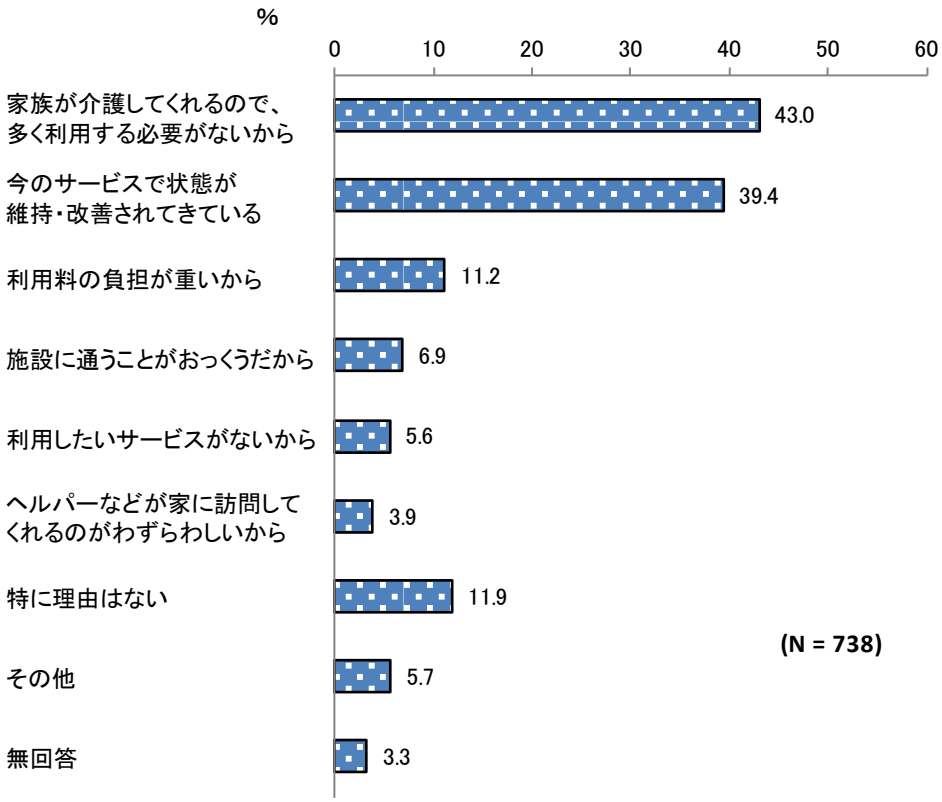
◇介護保険サービスの利用状況は、「上限まで利用していない」が 49.5%、「上限まで利用した」が 13.6%となっている。【図表 5-1-1】

◇利用額上限まで利用していない理由としては、「家族が介護してくれるので、多く利用する必要がないから」が 43.0%で最も高く、次いで「今のサービスで状態が維持・改善されてきている」が 39.4%となっている。【図表 5-1-2】

【図表 5-1-1 利用額上限までの利用の有無】



【図表 5-1-2 利用額の上限まで利用していない理由[複数回答]】

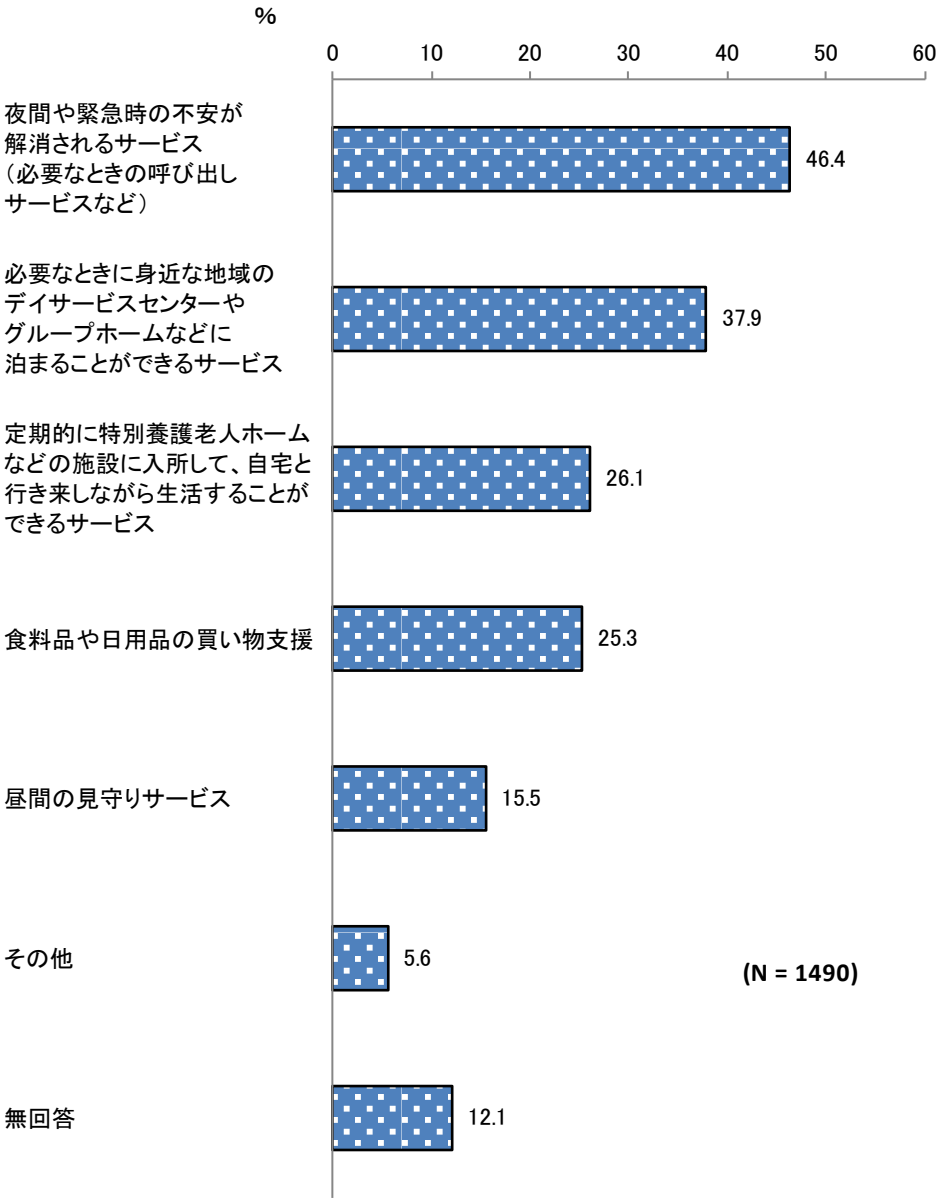


２．在宅で生活するために必要性が高いサービス

（問 25）

◇在宅で生活するために必要性が高いと思うサービスは、「夜間や緊急時の不安が解消されるサービス（必要なときの呼び出しサービスなど）」が 46.4％で最も高く、次いで「必要なときに身近な地域のデイサービスセンターやグループホームなどに泊まることができるサービス」が 37.9％となっている。【図表 5-2-1】

【図表 5-2-1 在宅生活で必要性が高いサービス[複数回答]】



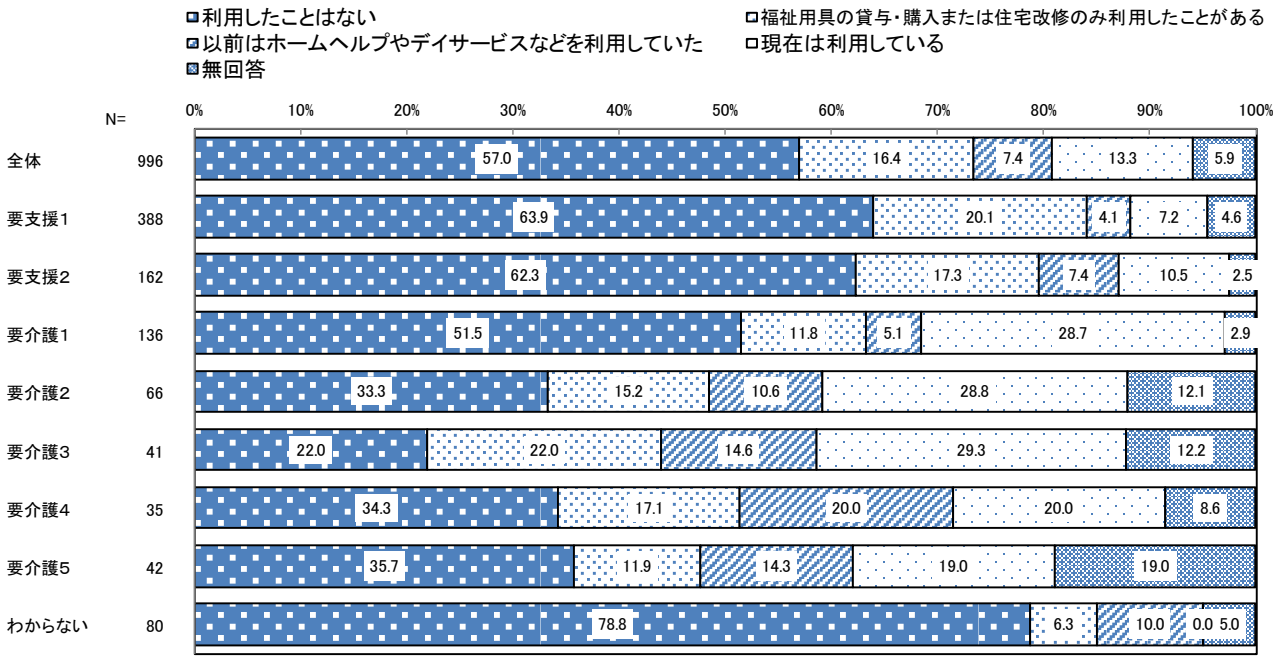
第６章　介護保険在宅サービス未利用者調査

１．介護保険サービスの利用状況

（１）在宅サービスの利用経験（問 19）

◇介護保険の在宅サービスの利用経験は、「利用したことはない」が 57.0%となっており、特に要支援１で 63.9%、要支援２で 62.3%、要介護１で 51.5%と、要介護度が軽いほど概ねその割合が高い傾向にある。【図表 6-1-1】

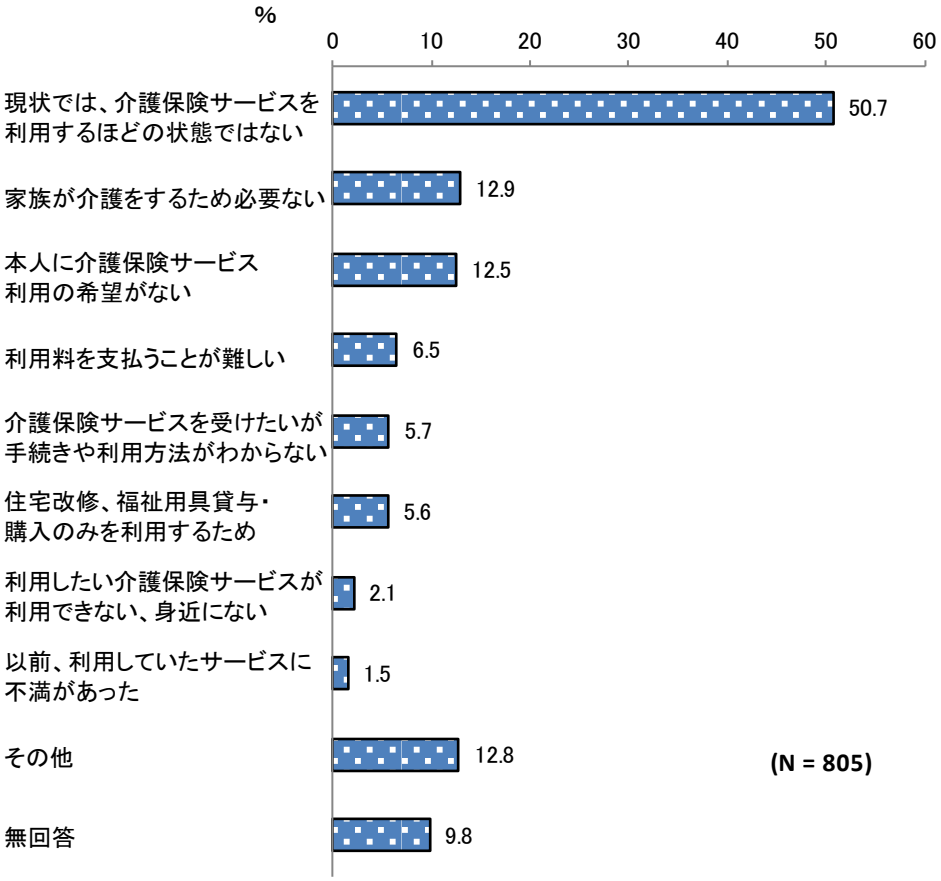
【図表 6-1-1 介護保険の在宅サービスの利用経験（要介護度別）】



（２）在宅サービスを利用していない理由（問 19－１）

◇在宅サービスを利用していない理由は、「現状では、介護保険サービスを利用するほどの状態ではない」が 50.7%で最も高く、次いで「家族が介護するため必要ない」が 12.9%、「本人に介護保険サービス利用の希望がない」が 12.5%となっている。【図表 6-1-2】

【図表 6-1-2 介護保険の在宅サービスを利用していない理由[複数回答]】



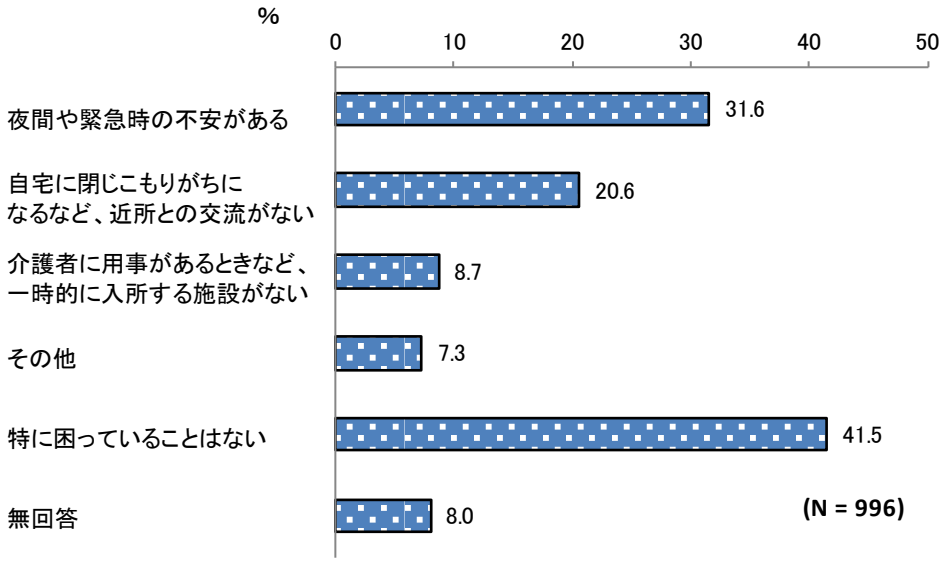
２．今後の介護保険サービスの利用

（問 20・問 21）

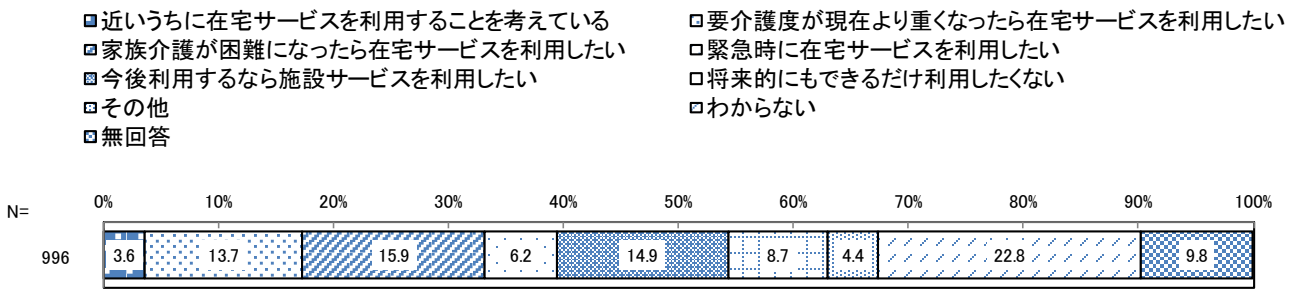
◇在宅で生活する上で困っていることは、「特に困っていることはない」が 41.5%で最も高く、次いで「夜間や緊急時の不安がある」が 31.6%、「自宅に閉じこもりがちになるなど、近所との交流がない」が 20.6%となっている。【図表 6-2-1】

◇今後の介護サービスの利用意向は、「わからない」を除くと、「家族介護が困難になったら在宅サービスを利用したい」が 15.9%で最も高く、次いで「今後利用するなら施設サービスを利用したい」が 14.9%、「要介護度が現在より重くなったら在宅サービスを利用したい」が 13.7%となっている。【図表 6-2-2】

【図表 6-2-1 在宅で生活する上で困っていること[複数回答]】



【図表 6-2-2 今後の介護サービスの利用意向】



第７章　介護保険施設等サービス利用者調査

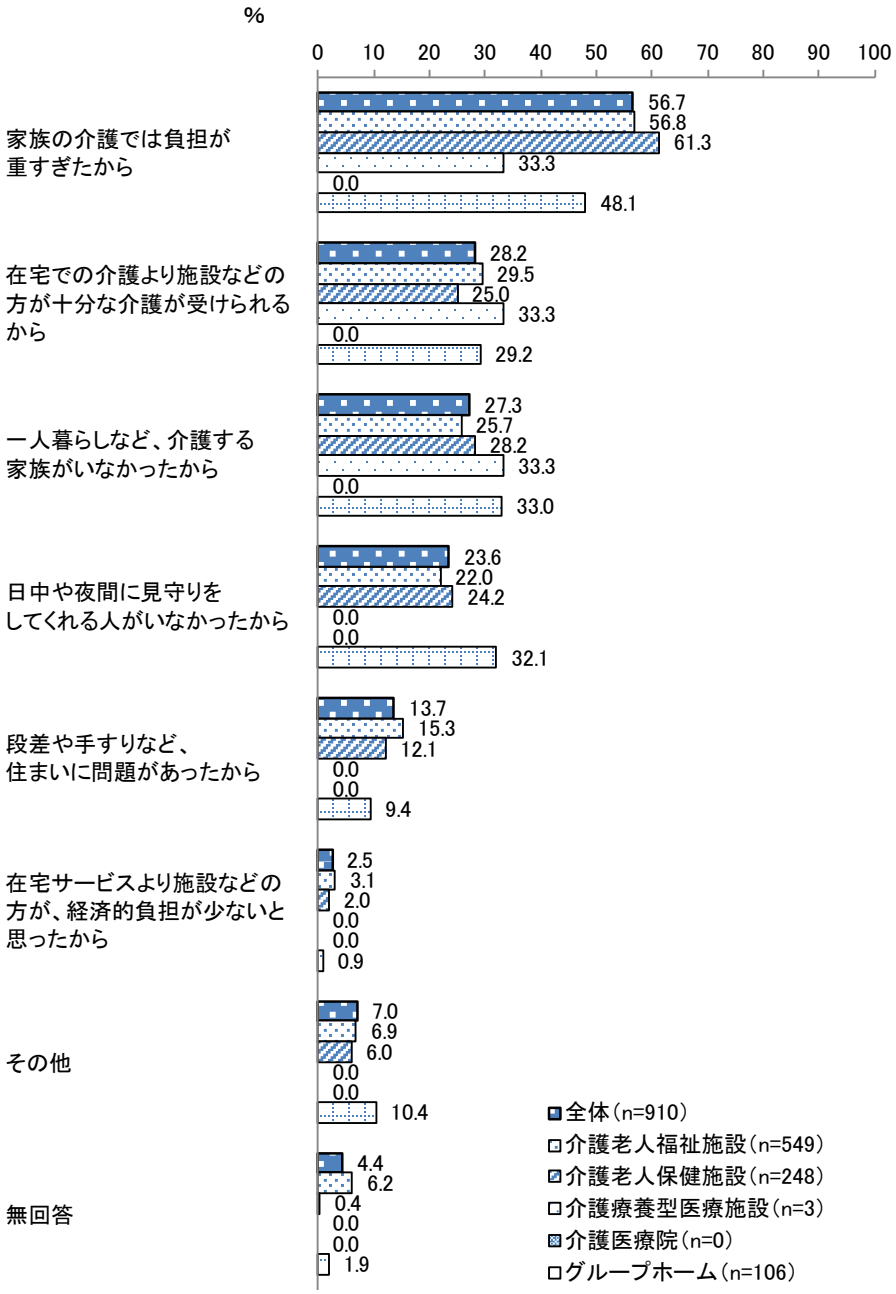
１．施設等への入所を希望した理由・現在の施設の満足度

（問 10・問 20）

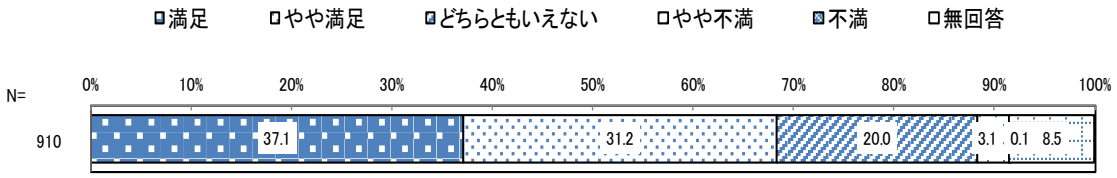
◇施設等への入所を希望した理由は、「家族の介護では負担が重すぎたから」が 56.7%で最も高く、次いで「在宅での介護より施設などの方が十分な介護が受けられるから」が 28.2%、「一人暮らしなど、介護する家族がいなかったから」が 27.3%となっている。介護老人保健施設では「家族の介護では負担が重すぎたから」が 61.3%と、他施設と比べて高くなっている。【図表 7-1-1】

◇現在の施設への満足度は、「満足」37.1%と「やや満足」31.2%を合わせた『満足』が 68.3%、「不満」0.1%と「やや不満」3.1%を合わせた『不満』が 3.2%となっている。【図表 7-1-2】

【図表 7-1-1 施設等への入所を希望した理由（施設別）】



【図表 7-1-2 現在の施設の満足度】



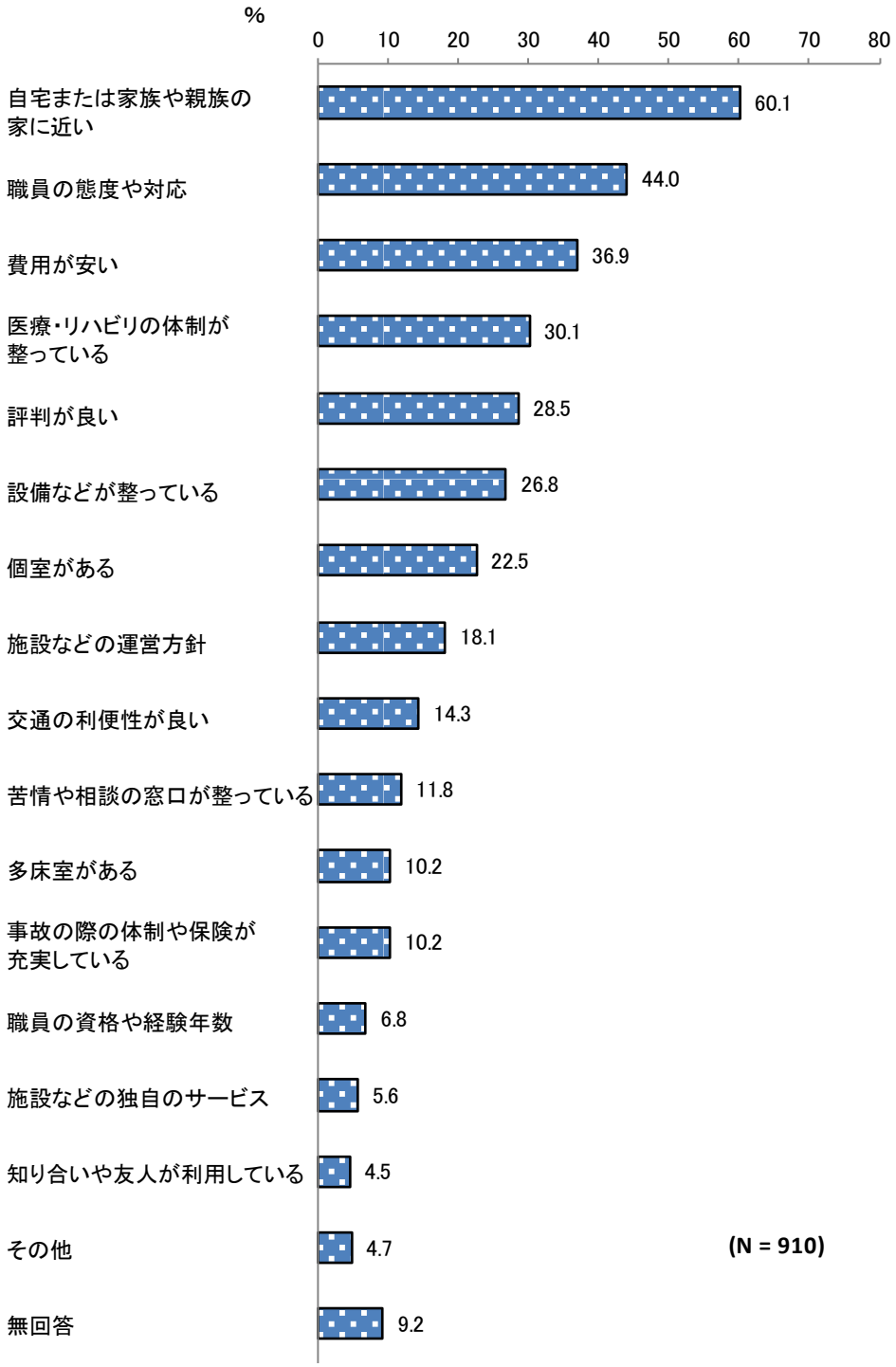
満足	不満
68.3	3.2

２．施設等を選ぶときに重視する点

（問 19）

◇施設等を選ぶときに重視する点は、「自宅または家族や親族の家に近い」が 60.1％で最も高く、次いで「職員の態度や対応」が 44.0%、「費用が安い」が 36.9%となっている。【図表 7-2-1】

【図表 7-2-1 施設等を選ぶときに重視する点[複数回答]】



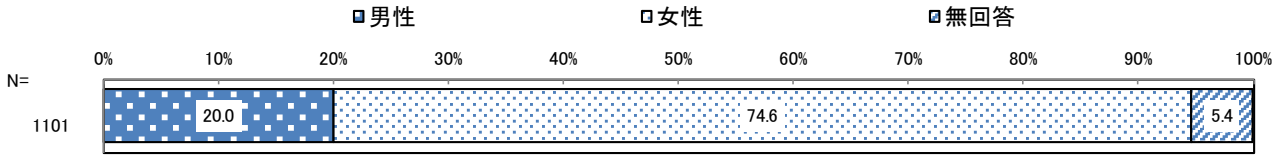
第８章　介護支援専門員調査

１．回答者の属性

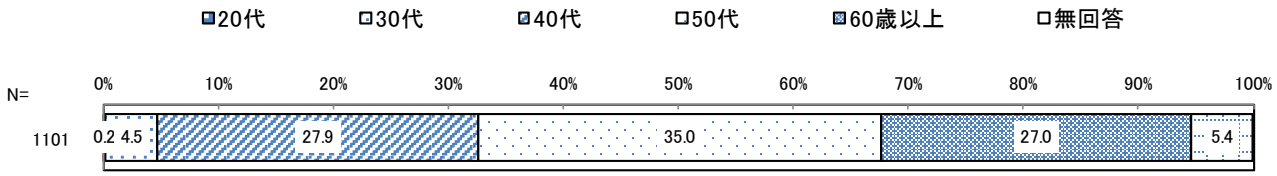
（問１・問２・問３）

◇回答者の性別は、「男性」が 20.0%、「女性」が 74.6%となっている。【図表 8-1-1】
◇年齢は、「50 代」が 35.0%で最も高く、次いで「40 代」が 27.9%、「60 歳以上」が 27.0%となっている。【図表 8-1-2】
◇介護支援専門員としての経験年数は、「6 年以上」が 67.8%で最も高く、次いで「3 年～6 年未満」が 12.0%、「1 年未満」が 5.4%となっている。【図表 8-1-3】

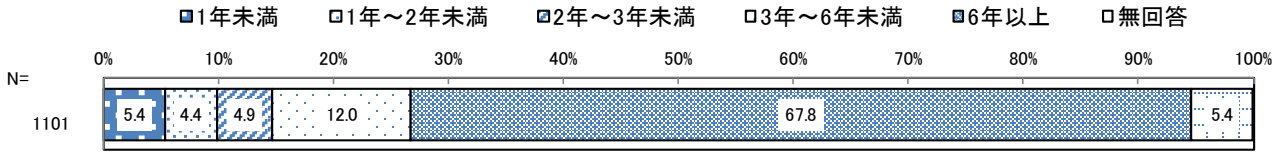
【図表 8-1-1 性別】



【図表 8-1-2 年齢】



【図表 8-1-3 介護支援専門員としての経験年数】



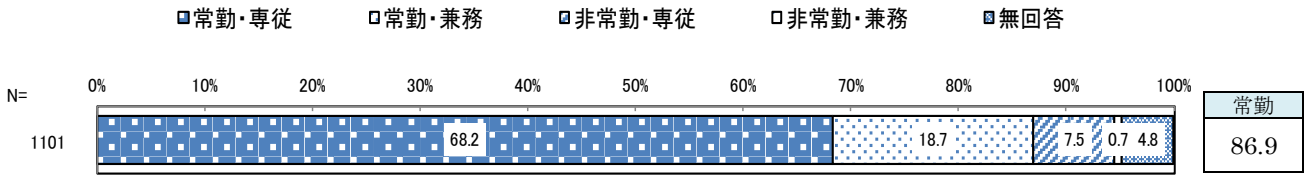
２．勤務形態・兼務内容

（問６・問６－１）

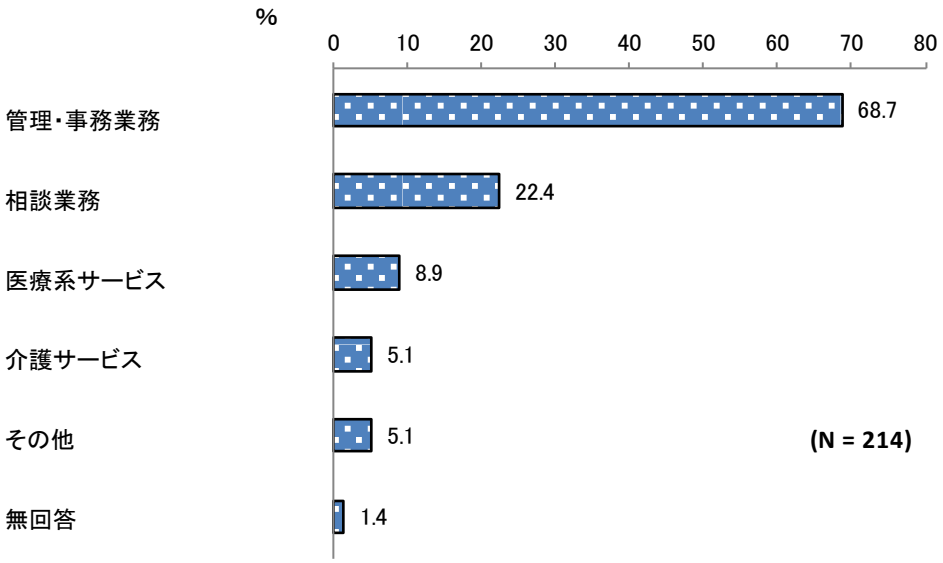
◇勤務形態は、「常勤・専従」68.2%と「常勤・兼務」18.7%を合わせた『常勤』が86.9%となっている。【図表8-2-1】

◇兼務している人の業務内容は、「管理・事務業務」が68.7%で最も高く、次いで「相談業務」が22.4%となっている。【図表8-2-2】

【図表 8-2-1 勤務形態】



【図表 8-2-2 兼務している業務[複数回答]】

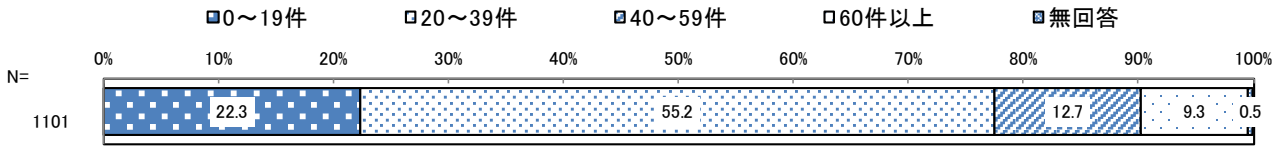


３．ケアマネジメント

（１）給付管理件数（問９）

◇令和７年 10 月に行った給付管理件数は、「20～39 件」が 55.2%で最も高く、次いで「0～19 件」が 22.3%、「40～59 件」が 12.7%となっている。【図表 8-3-1】
◇令和７年 10 月の介護支援専門員一人あたりの給付管理件数は 31.8 件となっている。なお、令和４年 10 月の一人あたりの給付管理件数は 31.4 件となっている。

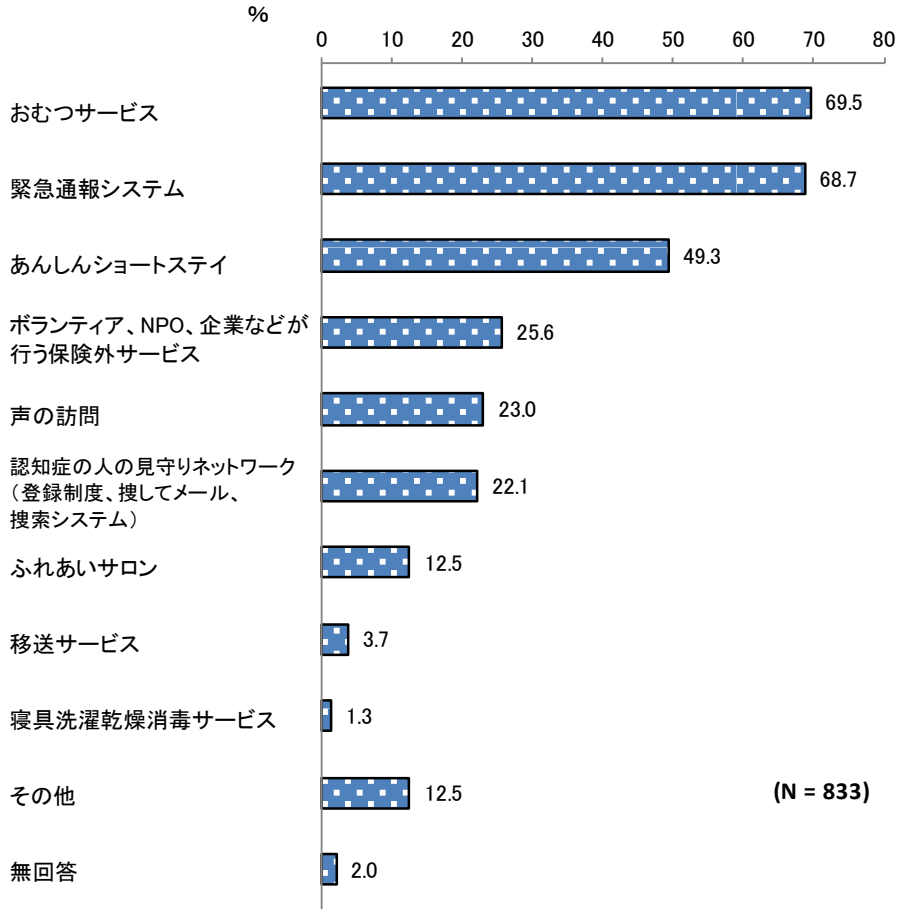
【図表 8-3-1 給付管理件数】



（２）組み合わせた保険外サービス（問 10－１）

◇ケアプランで組み合わせた保険外サービスの種類は、「おむつサービス」が 69.5%で最も高く、次いで「緊急通報システム」が 68.7%、「あんしんショートステイ」が 49.3%となっている。【図表 8-3-2】

【図表 8-3-2 ケアプランで組み合わせた保険外サービスの種類[複数回答]】

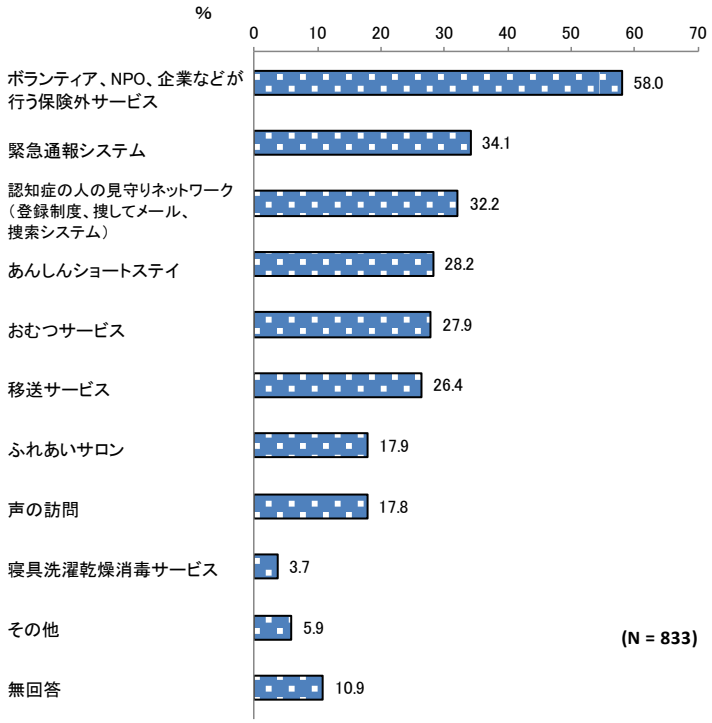


（３）今後充実が必要な保険外サービス（問 10－３・問 10－４）

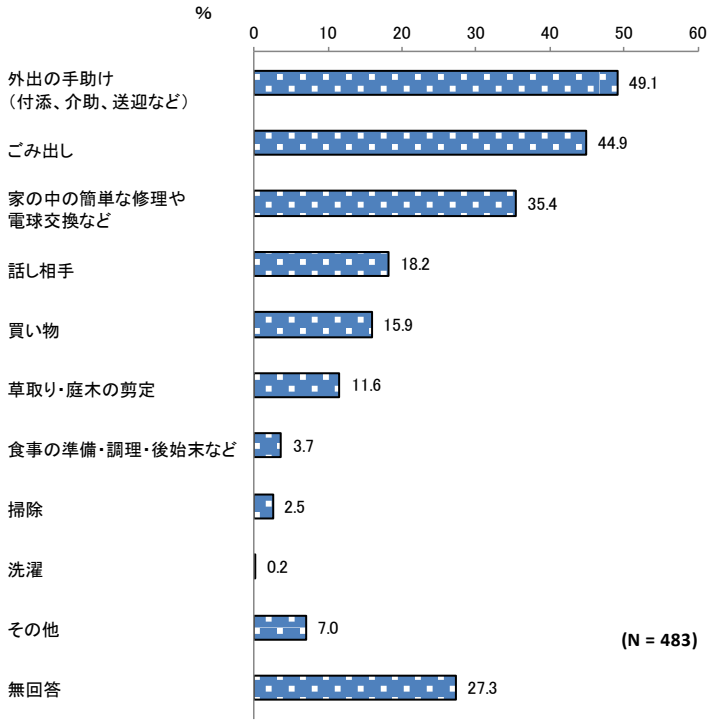
◇今後充実が必要な保険外サービスの種類は、「ボランティア、ＮＰＯ、企業などが行う保険外サービス」が 58.0%で最も高く、次いで「緊急通報システム」が 34.1%、「認知症の人の見守りネットワーク（登録制度、捜してメール、捜索システム）」が 32.2%となっている。【図表 8-3-3】

◇今後充実が必要なボランティアなどが行う保険外サービスの内容は、「外出の手助け（付添、介助、送迎など）」が 49.1%で最も高く、次いで「ごみ出し」が 44.9%、「家の中の簡単な修理や電球交換など」が 35.4%となっている。【図表 8-3-4】

【図表 8-3-3 今後充実が必要な保険外サービスの種類[複数回答]】



【図表 8-3-4 今後充実が必要なボランティア等が行う保険外サービスの内容[複数回答]】

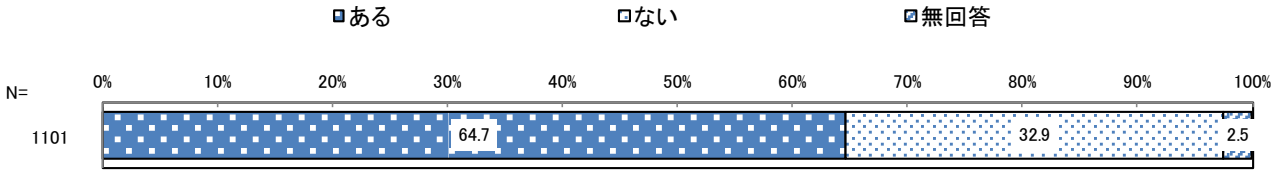


４．地域ケア会議

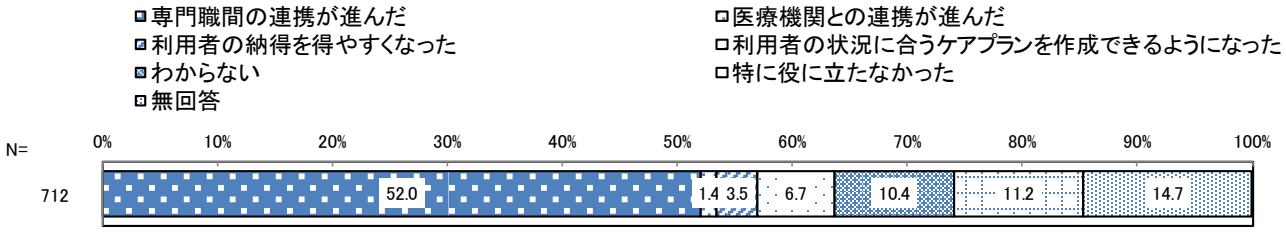
（問 32・問 32－１）

◇地域ケア会議への参加有無は、「ある」が 64.7%、「ない」が 32.9%となっている。【図表 8-4-1】
◇地域ケア会議に参加した効果としては、「専門職間の連携が進んだ」が 52.0%で最も高く、半数を超えている。【図表 8-4-2】

【図表 8-4-1 地域ケア会議への参加有無】



【図表 8-4-2 地域ケア会議の効果】

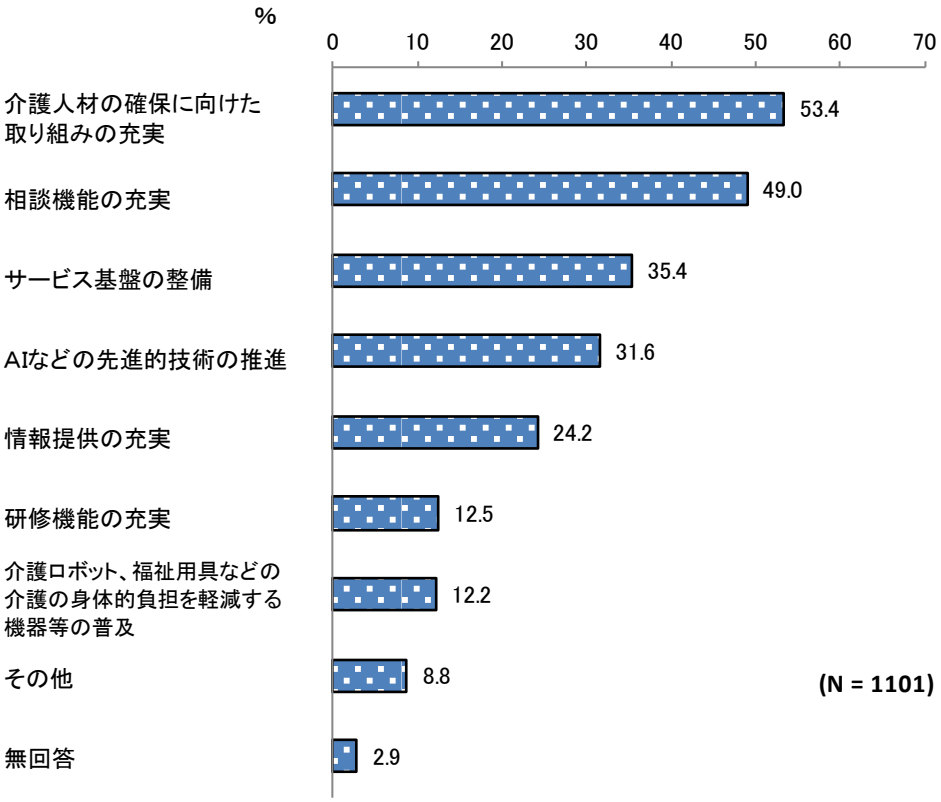


５．行政に期待する役割

（問 37）

◇今後、行政に期待する役割は、「介護人材の確保に向けた取り組みの充実」が 53.4％で最も高く、次いで「相談機能の充実」が 49.0％、「サービス基盤の整備」が 35.4％となっている。【図表 8-5-1】

【図表 8-5-1 行政に期待する役割［複数回答］】



令和７年度福岡市高齢者実態調査報告書

【概要版】

令和８年７月

発　行　　福岡市
企　画　　福岡市　福祉局　高齢社会部　高齢社会政策課
〒810－8620　福岡市中央区天神１丁目８番１号
電　話　　（092）711－4595
ＦＡＸ　　（092）733－5914